

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄						備考		
計画の区分	研究科の設置								
フリガナ設置者	カッポホクシツ カガケン 学校法人 加計学園								
フリガナ大学の名称	カヤマカガイカクイ 岡山理科大学大学院								
大学本部の位置	岡山県岡山市北区理大町1番1号								
大学の目的	岡山理科大学大学院は、教育基本法（平成18年法律第120号）及び学校教育法（昭和22年法律第26号）の本旨の通り学術の理論及び応用を教授・研究し、その深奥を究めて文化の進展に寄与することを目的とする。								
新設学部等の目的	<p>獣医学研究科は、人間社会に密接に関係し、かつ人類と共存する動物群を分子・個体、環境、及び臨床を含む多角的視点から理解するための基礎・社会・臨床研究を進めること、また、これらの研究をベースとして持続可能な未来における新規研究領域を萌芽するための創造力を発揮できるライフサイエンス・パブリックヘルスサイエンス（公共獣医事）・クリニカルサイエンス（高度獣医療看護・臨床獣医）の視点を有する研究者や指導者の養成を目的とする。</p> <p>獣医保健看護学専攻修士課程は、人間社会と密接な関係を持ち個人や社会を支える動物を管理するために必要な高度動物看護学または獣医関連科学の知識を有し、多角的な視点と最先端の研究戦略を用いて問題・課題を解決できる協調性・創造性豊かな獣医保健看護学研究者（高度獣医療看護・獣医関連科学分野研究者）の養成を目的とする。</p> <p>獣医学専攻博士課程は、「One world, One health, One medicine」の精神に基づき、ライフサイエンス、パブリックヘルスサイエンス、クリニカルサイエンスを含む獣医学に基づく多角的な視点・手法を用いて諸問題を解決できる協調性・創造性豊かな指導者と将来なり得る次世代研究者の養成を目的とする。</p>								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限 年	入学定員 人	編入学定員 年次人	収容定員 人	学位又は称号	開設時期及び開設年次 年月第年次	所在地	
	獣医学研究科 獣医保健看護学専攻 修士課程	2	5	—	10	修士（獣医保健看護学）	令和6年4月 第1年次	愛媛県今治市 いこいの丘1番3	【基礎となる学部】 獣医学部 獣医保健看護学科
	獣医学専攻 博士課程	4	3	—	12	博士（獣医学）	令和6年4月 第1年次		【基礎となる学部等】 獣医学部 獣医学科 獣医学研究科 獣医保健看護学専攻 修士課程
	計		8	—	22				
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	倉敷芸術科学大学 芸術学部 メディア映像学科（廃止）（△90） （3年次編入学定員）（△2） デザイン芸術学科（廃止）（△60） ※令和6年4月学生募集停止 芸術学科（150）（令和5年4月届出予定） （3年次編入学定員）（2）								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計				
	獣医学研究科 獣医保健看護学専攻 修士課程	7科目	7科目	1科目	15科目	32単位			
獣医学研究科 獣医学専攻 博士課程	4科目	4科目	2科目	10科目	32単位				

教 員 組 織 の 概 要	学 部 等 の 名 称		専任教員等					兼 任 教 員 等	
			教授	准教授	講師	助教	計		助手
新 設 分	獣医学研究科 獣医保健看護学専攻 修士課程		18人 (18)	8人 (8)	0人 (0)	0人 (0)	26人 (26)	0人 (0)	1人 (1)
	獣医学専攻 博士課程		8 (8)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	1 (1)
	計		18 (18)	8 (8)	0 (0)	0 (0)	26 (26)	0 (0)	— (—)
既 設 分	理工学研究科 自然科学専攻 修士課程		56人 (56)	37人 (37)	22人 (22)	2人 (2)	117人 (117)	0人 (0)	2人 (2)
	自然科学専攻 博士課程 (後期)		44 (44)	29 (29)	5 (5)	0 (0)	78 (78)	0 (0)	0 (0)
	システム科学専攻 修士課程		44 (44)	20 (20)	12 (12)	1 (1)	77 (77)	0 (0)	5 (5)
	システム科学専攻 博士課程 (後期)		39 (39)	18 (18)	6 (6)	0 (0)	63 (63)	0 (0)	0 (0)
	マネジメント研究科 マネジメント専攻 修士課程		7 (7)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	1 (1)
	教育推進機構		1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
	教育開発センター		1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	0 (0)
	基盤教育センター		12 (12)	10 (10)	2 (2)	4 (4)	28 (28)	0 (0)	0 (0)
	教職支援センター		4 (4)	1 (1)	2 (2)	3 (3)	10 (10)	0 (0)	0 (0)
	学芸員教育センター		1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
	グローバルセンター		0 (0)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)
	情報基盤センター		1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
	フロンティア理工学研究所		1 (1)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)
	ワイン発酵科学センター		0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
	研究・社会連携センター		1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
	工作センター		0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
	古生物学・年代学研究センター		1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
	建築歴史文化研究センター		1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
	生物生産教育研究センター		0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
	計		131 (131)	75 (75)	42 (42)	11 (11)	259 (259)	0 (0)	— (—)
	合 計		149 (149)	83 (83)	42 (42)	11 (11)	285 (285)	0 (0)	— (—)
教員以外の職員の概要	職 種		専 任		兼 任		計		
	事 務 職 員		124人 (124)		27人 (27)		151人 (151)		
	技 術 職 員		1 (1)		1 (1)		2 (2)		
	図 書 館 専 門 職 員		4 (4)		4 (4)		8 (8)		
	そ の 他 の 職 員		16 (16)		8 (8)		24 (24)		
	計		145 (145)		40 (40)		185 (185)		
校 地 等	区 分	専 用	共 用		共用する他の学校等の専用		計		
	校 舎 敷 地	184,730㎡	0㎡		0㎡		184,730㎡		
	運 動 場 用 地	123,813㎡	0㎡		0㎡		123,813㎡		
	小 計	308,543㎡	0㎡		0㎡		308,543㎡		
	そ の 他	648,934㎡	0㎡		0㎡		648,934㎡		
	合 計	957,477㎡	0㎡		0㎡		957,477㎡		

大学全体

大学全体
借用期間及び面積
1年 60㎡
3年 224㎡
30年 14,731㎡
60年 15,974㎡

校舎		専用	共用	共用する他の学校等の専用	計		大学全体			
		127,226㎡ (127,226㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	127,226㎡ (127,226㎡)	127,226㎡ (127,226㎡)				
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設		大学全体			
	82室	152室	423室	12室 (補助職員4人)	10室 (補助職員0人)					
専任教員研究室		新設学部等の名称			室数		23室			
		獣医学研究科								
図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体 図書489,304冊 (175,859冊) 学術雑誌15,062種 (12,207種) 電子ジャーナル9,523種 (9,464種) 視聴覚資料5,530点		
	獣医学研究科	19,842 [2,924] (19,842 [2,924])	55 [15] (55 [15])	12 [12] (12 [12])	802 (802)	35,553 (35,553)	210 (210)			
	計	19,842 [2,924] (19,842 [2,924])	55 [15] (55 [15])	12 [12] (12 [12])	802 (802)	35,553 (35,553)	210 (210)			
図書館		面積		閲覧座席数	収納可能冊数		大学全体			
		5,982㎡		976席	542,633冊					
体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体		
		6,312㎡		トレーニングルーム2室		フィットネスルーム1面				
				野球場1面		テニスコート8面				
				アーチェリー場1カ所		弓道場1カ所				
				幅跳・三段跳場1面						
経費の 見及び 持の 方法 の 概要	経費の 見及び 持の 方法 の 概要	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	研究費・共同研究費等・図書購入費・設備購入費は研究科単位での算出不能のため、学部との合計。 設備購入費として開設前年度に大学院生室・ゼミ室の整備をするためテーブル・モニター等を購入する。
		教員1人 当り研究 費等		600千円	600千円	—千円	—千円	—千円	—千円	
		共同研究 費等		600千円	600千円	600千円	600千円	—千円	—千円	
		図書購 入費		1,000千円	1,000千円	—千円	—千円	—千円	—千円	
		設備購 入費		1,000千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	—千円	—千円	
		図書購 入費		0千円	0千円	0千円	0千円	—千円	—千円	
	設備購 入費		0千円	0千円	0千円	0千円	—千円	—千円		
	設備購 入費		1,072千円	0千円	0千円	—千円	—千円	—千円		
	設備購 入費		667千円	0千円	0千円	0千円	0千円	—千円		
	学生1 人当り 納付金		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		720千円	620千円	—千円	—千円	—千円	—千円			
		720千円	620千円	620千円	620千円	—千円	—千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金、手数料							
既設 大学 等 の 状 況	大学の名称		岡山理科大学							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	岡山理科大学	年	人	人	人		倍		岡山県岡山市北区理大町1番1号	
	理学部						0.82			
	応用数学科	4	110	—	440	学士(理学)	1.00	昭和39年度		
	基礎理学科	4	90	—	360	学士(理学)	0.87	昭和50年度		
	物理学科	4	45	—	180	学士(理学)	0.82	昭和41年度	令和4年4月名称変更	
	応用物理学科 臨床工学専攻	4	—	—	—	学士(理学)	—	昭和41年度	令和4年より学生募集停止	
	化学科	4	75	—	300	学士(理学)	0.68	昭和39年度		
	生物化学科	4	—	—	—	学士(理学)	—	昭和63年度	令和4年より学生募集停止	
動物学科	4	45	—	180	学士(理学)	0.88	平成20年度			
臨床生命科学科	4	50	—	290	学士(理学)	0.62	平成16年度	令和4年度入学定員減(△45)		
工学部						0.93				
機械システム工学科	4	90	—	360	学士(工学)	0.95	昭和61年度			
電気電子システム学科	4	70	—	280	学士(工学)	1.02	昭和61年度			
情報工学科	4	75	—	340	学士(工学)	1.02	平成4年度	令和4年度入学定員減(△20)		
応用化学科	4	60	—	290	学士(工学)	0.72	昭和61年度	令和4年4月名称変更 令和4年度入学定員減(△25)		

大学等の名称	岡山理科大学								所在地							
	修業年限	入学定員	編入学員 年次 人	収容定員	学位又は 称号	定員 超過率 倍	開設 年度	所在地								
既設 大学等 の 状 況	知能機械工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成17年度	愛媛県今治市いこの丘1番3 岡山県岡山市北区理大町1番1号							
	建築学科	4	75	5	310	学士（工学）	1.06	平成23年度								
	生命医療工学科	4	25	—	170	学士（工学）	0.73	平成19年度								
	情報理工学部	4	210	—	420	学士（情報理工学）	1.03	令和4年度								
	情報理工学科						1.03									
	総合情報学部	4	—	—	—	学士（総合情報学）	—	平成9年度								
	情報科学科						—									
	社会情報学科	4	—	—	—	学士（総合情報学）	—	平成17年度								
	生命科学部	4	165	—	330	学士（生命科学）	0.78	令和4年度								
	生物科学科						0.78									
	生物地球学部	4	140	—	560	学士（理学）	1.02	平成24年度								
	生物地球学科						1.02									
	教育学部	4	70	—	280	学士（教育学）	0.77	平成28年度								
	初等教育学科						0.83									
	中等教育学科	4	60	—	240	学士（教育学）	0.70	平成28年度								
	経営学部	4	160	—	580	学士（経営学）	1.04	平成29年度								
	経営学科						1.04									
	獣医学部（6年制）	6	140	—	840	学士（獣医学）	1.05	平成30年度								
	獣医学部（4年制）						0.97									
	獣医学科						1.05									
	獣医保健看護学科	4	60	—	240	学士（獣医保健看護学）	0.97	平成30年度								
	岡山理科大学大学院	岡山県岡山市北区理大町1番1号	—	—	—	—	—	—								
	理学研究科															
	応用数学専攻									2	—	—	—	修士（理学）	—	昭和55年度
	修士課程														—	
	博士課程（後期）									3	—	—	—	博士（理学）	—	昭和62年度
	化学専攻									2	—	—	—	修士（理学）	—	昭和49年度
	修士課程														—	
	応用物理学専攻									2	—	—	—	修士（理学）	—	昭和49年度
	修士課程														—	
	総合理学専攻									2	—	—	—	修士（理学）	—	昭和63年度
	修士課程														—	
	生物化学専攻									2	—	—	—	修士（理学）	—	平成4年度
	修士課程														—	
	臨床生命科学専攻									2	—	—	—	修士（理学）	—	平成20年度
	修士課程														—	
動物学専攻	2								—	—	—	修士（理学）	—	平成24年度		
修士課程													—			
材質理学専攻	3								—	—	—	博士（理学）	—	昭和53年度		
博士課程（後期）													—			
工学研究科	岡山県岡山市北区理大町1番1号								—	—	—	—	—	—		
応用化学専攻																
修士課程		2	—	—	—	修士（工学）	—	平成2年度								
機械システム工学専攻		2	—	—	—	修士（工学）	—	平成2年度								
修士課程							—									
電子工学専攻		2	—	—	—	修士（工学）	—	平成2年度								
修士課程							—									
情報工学専攻		2	—	—	—	修士（工学）	—	平成8年度								
修士課程	—															
知能機械工学専攻	2	—	—	—	修士（工学）	—	平成21年度									
修士課程						—										

既設大学等の状況	大学等の名称									所在地
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	岡山理科大学									
	生体医工学専攻 修士課程	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成23年度	令和5年より学生募集停止	
	建築学専攻 修士課程	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成23年度	令和5年より学生募集停止	
	システム科学専攻 博士課程(後期)	3	—	—	—	博士(工学)	—	平成2年度	令和5年より学生募集停止	
	総合情報研究科 情報科学専攻 修士課程	2	—	—	—	修士(総合情報)	—	平成13年度	令和5年より学生募集停止	
	数理・環境システム専攻 博士課程(後期)	3	—	—	—	博士(学術)	—	平成15年度	令和5年より学生募集停止	
	生物地球科学研究科 生物地球科学専攻 修士課程	2	—	—	—	修士(理学)	—	平成28年度	令和5年より学生募集停止	
	マネジメント研究科 マネジメント専攻 修士課程	2	12	—	24	修士(マネジメント)	1.04	令和3年度		
	理工学研究科 自然科学専攻 修士課程	2	70	—	70	修士(理学)	—	令和5年度	令和5年4月届出設置	
	自然科学専攻 博士課程(後期)	3	10	—	10	博士(理学)	—	令和5年度	令和5年4月届出設置	
	システム科学専攻 修士課程	2	60	—	60	修士(工学)	—	令和5年度	令和5年4月届出設置	
	システム科学専攻 博士課程(後期)	3	5	—	5	博士(工学)	—	令和5年度	令和5年4月届出設置	
	倉敷芸術科学大学									
	倉敷芸術科学大学 芸術学部			3年次			0.99		岡山県倉敷市連島町西之浦2640	
	メディア映像学科	4	90	2	244	学士(芸術)	1.11	平成16年度	令和5年度入学定員増(40)	
	デザイン芸術学科	4	60	—	215	学士(芸術)	0.87	平成20年度	令和3年度入学定員減(△5) 令和5年度入学定員増(10)	
	生命科学部 生命科学科	4	40	—	170	学士(生命科学)	0.76	平成16年度	令和3年度入学定員減(△10)	
	健康科学科	4	55	—	245	学士(健康科学)	0.82	平成16年度	令和3年度入学定員減(△25)	
	動物生命科学科	4	50	3年次	189	学士(生命科学)	1.06	平成18年度	令和3年度入学定員減(△15) 令和5年度入学定員増(10)	
	生命医科学科	4	55	—	220	学士(生命科学)	1.03	平成20年度		
	危機管理学部 危機管理学科	4	—	—	—	学士(危機管理)	—	平成29年度	令和5年より学生募集停止	
	倉敷芸術科学大学大学院 芸術研究科 美術専攻 修士課程	2	10	—	20	修士(芸術)	1.40	平成11年度		
	芸術制作表現専攻 博士(後期)課程	3	4	—	12	博士(芸術)	0.25	平成13年度		

大学等の名称	倉敷芸術科学大学								所在地
	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
産業科学技術研究科 機能物質化学専攻 修士課程	2	8	—	16	修士（産業科学技術）	0.12	平成11年度		
博士（後期）課程	3	2	—	6	博士（工学）	0.00	平成13年度		
人間文化研究科 人間文化専攻 修士課程	2	15	—	30	修士（学術）	0.10	平成11年度		
大学院（通信制） 芸術研究科 美術専攻（通信制） 修士課程	2	—	—	—	修士（芸術）	—	平成14年度	令和5年より学生募集停止	
産業科学技術研究科 機能物質化学専攻（通信制） 修士課程	2	—	—	—	修士（産業科学技術）	—	平成14年度	令和5年より学生募集停止	
人間文化研究科 人間文化専攻（通信制） 修士課程	2	—	—	—	修士（学術）	—	平成14年度	令和5年より学生募集停止	
大学等の名称	千葉科学大学								
千葉科学大学 薬学部 薬学科	6	100	—	680	学士（薬学）	0.58	平成16年度	千葉県銚子市 潮見町3番 令和4年度入学定員減（△20）	
危機管理学部 危機管理学科	4	120	—	480	学士（危機管理）	0.72	平成16年度		
保健医療学科	4	80	—	320	学士（危機管理）	0.76	平成21年度		
航空技術危機管理学科	4	40	—	160	学士（危機管理）	0.64	平成22年度		
動物危機管理学科	4	60	—	240	学士（危機管理）	0.62	平成24年度		
看護学部 看護学科	4	90	—	340	学士（看護学）	0.96	平成26年度	令和4年度入学定員増（10）	
千葉科学大学大学院 薬学研究科 薬学専攻 博士課程	4	3	—	12	博士（薬学）	0.08	平成24年度		
薬科学専攻 修士課程	2	—	—	—	修士（薬科学）	—	平成22年度	令和5年より学生募集停止	
博士課程（後期）	3	5	—	15	博士（薬科学）	0.00	平成22年度		
危機管理学研究科 危機管理学専攻 修士課程	2	10	—	15	修士（危機管理学）	1.40	平成20年度	令和5年度入学定員増（5）	
博士課程（後期）	3	3	—	9	博士（危機管理学）	0.33	平成22年度		
看護学研究科 看護学専攻 修士課程	2	5	—	10	修士（看護学）	1.10	平成30年度		

既設大学等の状況

附属施設の概要	(名称) 工作センター (開設年月) 昭和61年9月1日 (所在地) 岡山県岡山市北区理大町1番1号 (目的) 工学部を中心とした全学共通施設 (規模等) 工作センター 専有面積 446㎡	
	(名称) 獣医学教育病院 (開設年月) 平成30年4月1日 (所在地) 愛媛県今治市いこいの丘1番3 (目的) 獣医学部の附属施設 (規模等) 土地(建築面積) 2,116㎡ 建物(延べ床面積) 3,739㎡	獣医学教育病院棟 (1・2階) 獣医学教育病院 (3・4・PH階) 研究室, 実習室等

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」, 「新設学部等の目的」, 「新設学部等の概要」, 「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず, 斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については, 共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科又は高等専門学校の出定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は, 「教育課程」, 「教室等」, 「専任教員研究室」, 「図書・設備」, 「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず, 斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は, 「教育課程」, 「校地等」, 「校舎」, 「教室等」, 「専任教員研究室」, 「図書・設備」, 「図書館」, 「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず, 斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には, 実技も含むこと。
- 6 空欄には, 「-」又は「該当なし」と記入すること。

教育課程等の概要															
(獣医学研究科 獣医保健看護学専攻 修士課程)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	獣医関連生命科学総合講義Ⅰ	1通	2			○			7	8					オムニバス・集中 オムニバス・集中 共同
	獣医関連生命科学総合講義Ⅱ	2通	2			○			12	3					
	高齢動物科学特論	1前		2		○			1						
	動物感染症特論	1前		2		○				1					
	飼育動物学特論	1後		2		○			1						
	動物福祉学特論	1後		2		○			1						
	動物看護学特論	1後		2		○				2					
	小計(7科目)	—	4	10	0			—	18	8	0	0	0		
演習科目	獣医保健看護学特別演習Ⅰ	1前	2				○		6	3					オムニバス オムニバス オムニバス・共同(一部) オムニバス・共同(一部) オムニバス・共同(一部) オムニバス・共同(一部) 兼1 集中
	獣医保健看護学特別演習Ⅱ	1後	2				○		7	2					
	獣医保健看護学特別演習Ⅲ	2前	2				○		5	4					
	獣医保健看護学特別演習Ⅳ	2後	2				○		8	2					
	高度動物看護学特別演習	2前		2			○		3	4					
	いきものQOLラボ特別演習	1・2通		2			○		2						
	動物インターナショナルキャリア	1・2通		2			○		18	8					
	小計(7科目)	—	8	6	0			—	18	8	0	0	0	兼1	
特別研究	特別研究	1～2通	12					○	18	8					
	小計(1科目)	—	12	0	0			—	18	8	0	0	0	0	
合計(15科目)		—	24	16	0			—	18	8	0	0	0	兼1	
学位又は称号		修士(獣医保健看護学)			学位又は学科の分野			農学関係							
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
必修科目の「特別研究」12単位、「獣医保健看護学特別演習Ⅰ～Ⅳ」8単位、「獣医関連生命科学総合講義Ⅰ～Ⅱ」4単位を合わせた24単位と、専門科目(「高齢動物科学特論」「動物感染症特論」「飼育動物学特論」「動物福祉学特論」「動物看護学特論」から2単位以上を含む)及び演習科目の選択科目から8単位を合わせた計32単位以上を修得し、必要な研究指導を受けた上で、修士論文審査および最終試験に合格すること。								1学年の学期区分			2学期				
								1学期の授業期間			15週				
								1時限の授業時間			90分				

(注)

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。
 - 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

教育課程等の概要															
(獣医学研究科 獣医学専攻 博士課程)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	フロンティア獣医学総合講義Ⅰ	1通	2			○			8						オムニバス
	フロンティア獣医学総合講義Ⅱ	2通	2			○			8						オムニバス
	フロンティア獣医学総合講義Ⅲ	3通		2		○			8						オムニバス
	フロンティア獣医学総合講義Ⅳ	4通		2		○			8						オムニバス
	小計(4科目)	—	4	4	0	—			8	0	0	0	0		
演習科目	獣医インターナショナルキャリア	1・2・3・4通		1			○		8						共同・集中
	獣医学術プレゼンテーション	1・2・3・4通		1			○		8						共同・集中
	獣医いきものQOLラボ特別演習	1・2・3・4通		2			○		2					兼1	オムニバス・共同(一部)
	小計(3科目)	—	0	4	0	—			8	0	0	0	0	兼1	
特別研究	特別研究Ⅰ	1～2通	10					○	8						
	特別研究Ⅱ	3～4通	10					○	8						
	ゼミナール	1～4通	4				○		8						
	小計(3科目)	—	24	0	0	—			8	0	0	0	0	0	
合計(10科目)		—	28	8	0	—			8	0	0	0	0	0	兼1
学位又は称号	博士(獣医学)		学位又は学科の分野			獣医学関係									
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
必修科目の「特別研究Ⅰ～Ⅱ」20単位、「ゼミナール」4単位、「フロンティア獣医学総合講義Ⅰ～Ⅱ」4単位を合わせた28単位と、専門科目または演習科目の選択科目から4単位を合わせた計32単位以上を修得し、必要な研究指導を受けた上で、博士論文審査および最終試験に合格すること。								1 学年の学期区分				2 学期			
								1 学期の授業期間				15週			
								1 時限の授業時間				90分			

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 2 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 5 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 6 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - (1) 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。
 - (2) 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - (3) 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

教 育 課 程 等 の 概 要															
(獣医学部獣医保健看護学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
基礎 科目	動物関連キャリア概論	1春	1			○			4	2					兼21 オムニバス・ 共同（一部）※実習
	生命科学	1春		1		○									兼1
	動物分子生物学	1春		1		○									兼1
	化学	1春		1		○									兼1
	生物物理学	1秋		1		○									兼1
	情報リテラシー	1春	2			○									兼1
	生物統計	3秋		1		○									兼1
	基礎科学技術実習	1秋	1					○	1	1		1			兼3
小計（8科目）	—	—	4	5	0	—	—	4	3		1			兼25	
基礎 動物 科目	生命倫理・動物福祉	1春	2			○			1						
	動物看護関連法規	3春	1			○				1					
	動物愛護・適正飼養関連法規	1秋	1			○				1					
	比較動物学	2春	2			○			1	1					兼1
	動物形態機能学A	1春	2			○									兼1
	動物形態機能学B	1春	2			○									兼1
	動物形態機能学C	1秋	1			○									兼1
	動物形態機能学D	1秋	2			○									兼1
	動物形態機能学実習	1秋	1					○							兼5
	動物繁殖学	3秋	2			○									兼2
	動物栄養学	1秋	2			○				1					
	動物行動学	2春	2			○									兼1
	獣疫学	2春		2		○									兼1
	遺伝育種学	2秋		2		○									兼1
	バイオセーフティ学	1春		1		○									兼1
	生産学概論	1春		1		○			1						
	産業動物学	2秋		2		○			1						
	産業動物学実習	2秋		1				○	1	1		1			兼2
	実験動物学A	2秋		1		○			1						
	実験動物学実習A	2秋		1				○	1	1		1			
小計（20科目）	—	—	20	11	0	—	—	2	4	0	1	0		兼14	
愛 護・ 適 正 飼 養 科 目	人と動物の関係学	1春	2			○									兼1
	愛玩動物学	1春	2			○									兼1
	適性飼養指導論	1秋		1		○				1					
	動物生活環境学	2春		1		○				1					兼2
	ペット関連産業概論	4春		1		○					1				兼2
	動物愛護・適正飼養実習	2春～秋		1				○		1	1	2			
小計（6科目）	—	—	4	4	0	—	—	0	2	1	2	0		兼5	
基礎 動物 看 護 科 目	動物看護学概論	1秋	2			○			1	1					
	動物病理学	2春		2		○									
	動物薬理学A	2春	1			○									兼1
	動物薬理学B	2春		2		○									兼1
	動物薬理学実習	2春		1				○							兼6
	動物感染症学A	2春	2			○									兼2
	動物感染症学B	2春		2		○									兼3
	動物感染症学C	3春	2			○									兼1
	動物感染症学実習A	2秋		1				○							兼4
	動物感染症学実習C	3秋		1				○							兼4
	公衆衛生学A	2春	2			○									兼3
	公衆衛生学B	2秋	2			○									兼1
小計（12科目）	—	—	11	9	0	—	—	1	1	1	0	0		兼21	

教 育 課 程 等 の 概 要															
(獣医学部獣医保健看護学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
臨床動物看護科目	動物内科看護学A	2春	2			○				1			1		
	動物内科看護学B	3春		2		○							1	兼1	
	動物内科看護学実習A	2秋		1					1	1		2			
	動物内科看護学実習B	2秋		1					1	1		2			
	動物内科看護学実習C	3春		1					1			2		兼1	
	動物外科看護学	3春		2		○			1			1			
	動物外科看護学実習A	3秋		1					1	1				兼2	
	動物外科看護学実習B	3秋		1					1	1		1		兼3	
	動物臨床看護学総論	2秋	2			○					1				
	動物臨床看護学各論A	2秋	2			○			1					兼2	
	動物臨床看護学各論B	2秋	2			○								兼3	
	動物臨床看護学各論C	3春	2			○								兼1	
	動物臨床検査学	3春	2			○								兼1	
	動物臨床検査学実習	3春		1				○		1				兼2	
小計（14科目）	—	—	12	10	0	—	—	—	0	3	1	2	0	兼10	
動物保健看護アドバンス科目	実験動物科目	実験動物学B	3春		2		○						1		
		実験動物学実習B	3春～秋		1								1		
		実験動物学実習C	4春		1					1	1		1		
		実験動物看護学演習	4秋		1			○		1	1		1		
		動物毒性学	4秋		2		○								兼1
		動物毒性学実習	4秋		1				○						兼6
		トランスレーショナル・リサーチ	4秋		1			○							兼1
		獣医病態モデル学	4秋		1		○			1	1				兼3
		遺伝子工学	4春		1		○								兼1
		生殖工学	4秋		1		○			1					
小計（10科目）	—	—	0	12	0	—	—	—	2	2	0	1	0	兼9	
公衆衛生科目	家畜繁殖学	3秋		2		○				1				兼1	
	食品衛生学	3春		2		○				1					
	家畜疾病学	4春		1		○								兼1	
	医薬品・食品安全性評価演習	4春		1			○							兼1	
	動物園・水族館学	4春		1		○								兼1	
	野生動物学	4春		2		○								兼1	
	産業動物疾病予防管理学	4秋		1		○								兼1	
	人工授精学	4春		1		○				1					
	人工授精学実習	4春		1				○		1				兼1	
小計（9科目）	—	—	0	12	0	—	—	—	0	1	0	0	0	兼5	
高度獣医療看護科目	エキゾチックアニマル学	3秋		1		○			1					兼2	
	動物医療コミュニケーション	3秋		1		○				1		1			
	動物の疼痛と福祉	3秋		1		○				1				兼2	
	チーム獣医療学	4春		1		○					1			兼2	
	高齢動物看護学	4春		1		○			1		1				
	動物臨床看護学実習	4春		1				○			1	1			
小計（6科目）	—	—	0	6	0	—	—	—	1	2	1	1	0	兼5	

教育課程等の概要														
(獣医学部獣医保健看護学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
総合科目	動物看護総合実習A	3秋・4春		1				○		1	1	1		兼15
	動物看護総合実習B	3秋・4春		1				○		1	1	1		兼15
	動物看護総合実習C	3春・3秋・4春・4秋		1				○		2	1			
	動物看護総合実習D	3春・3秋・4春・4秋		1				○		2	1			
	プレゼミナールⅠ	3春	2				○		4	5	3	2		
	プレゼミナールⅡ	3秋	2				○		4	5	3	2		
	ゼミナールⅠ	4春		2			○		4	5	3	2		
	ゼミナールⅡ	4秋		2			○		4	5	3	2		
	卒業研究Ⅰ	4春		4			○		4	5	3	2		
	卒業研究Ⅱ	4秋		4			○		4	5	3	2		
小計(10科目)		—	4	16	0		—		4	5	3	2	0	兼15
外国語教育科目	総合英語ⅠA	1①	0.5				○							兼8
	総合英語ⅠB	1②	0.5				○							兼8
	総合英語ⅡA	1③	0.5				○							兼8
	総合英語ⅡB	1④	0.5				○							兼8
	総合英語ⅢA	2①	0.5				○							兼8
	総合英語ⅢB	2②	0.5				○							兼8
	総合英語ⅣA	2③	0.5				○							兼8
	総合英語ⅣB	2④	0.5				○							兼8
	発信英語ⅠA	1①	0.5				○							兼8
	発信英語ⅠB	1②	0.5				○							兼8
	発信英語ⅡA	1③	0.5				○							兼7
	発信英語ⅡB	1④	0.5				○							兼7
	発信英語ⅢA	2①	0.5	0.5			○							兼3
	発信英語ⅢB	2②	0.5	0.5			○							兼3
	発信英語ⅣA	2③	0.5	0.5			○							兼2
	発信英語ⅣB	2④	0.5	0.5			○							兼2
	専門英語ⅠA	3①	0.5					○						兼3
	専門英語ⅠB	3②	0.5					○						兼3
	専門英語ⅡA	3③	0.5					○						兼3
	専門英語ⅡB	3④	0.5					○						兼3
	応用英語ⅠA	3①	0.5				○							兼4
	応用英語ⅠB	3②	0.5				○							兼4
	応用英語ⅡA	3③	0.5				○							兼4
	応用英語ⅡB	3④	0.5				○							兼4
	実用英語(アカデミックライティング)	1①~②	1				○							兼4
	実用英語(プレゼンテーション)	1①~②	1				○							兼3
	中国語ⅠA	1①	0.5				○							兼3
	中国語ⅠB	1②	0.5				○							兼3
	中国語ⅡA	1③	0.5				○							兼3
	中国語ⅡB	1④	0.5				○							兼3
	ハンブルⅠA	1①	0.5				○							兼2
	ハンブルⅠB	1②	0.5				○							兼2
	ハンブルⅡA	1③	0.5				○							兼2
	ハンブルⅡB	1④	0.5				○							兼2
海外語学研修A	1・2・3・4・5・6 ①・②・③・④	1						○					兼1 集中	
海外語学研修B	1・2・3・4・5・6 ①・②・③・④	2						○					兼1 集中	
海外語学研修C	1・2・3・4・5・6 ①・②・③・④	2						○					兼1 集中	
海外語学研修D	1・2・3・4・5・6 ①・②・③・④	3						○					兼1 集中	
日本語	1①~②	4											兼1	
日本語理解	1③~④	2				○							兼1	
日本語表現	1③~④	2				○							兼1	
TOEICセミナーⅠ	1・2・3・4・5・6 ①・②・③・④	2						○					兼1	
TOEICセミナーⅡ	1・2・3・4・5・6 ①・②・③・④	2						○					兼1	
小計(43科目)		—	6	28	0		—		0	0	0	0	0	兼32

教育課程等の概要														
(獣医学部獣医保健看護学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
初年次 教育科目	フレッシュマンセミナー	1①	1			○								兼1
	小計 (1科目)	—	1	0	0	—		0	0	0	0	0	0	兼1
人間・ 社会科学 教育科目	心理学A	1①・③		1		○								兼1
	心理学B	1②・④		1		○								兼1
	文学A	1①・③		1		○								兼1
	文学B	1②・④		1		○								兼1
	日本史A	1①・③		1		○								兼1
	日本史B	1②・④		1		○								兼1
	外国史A	1①・③		1		○								兼1
	外国史B	1②・④		1		○								兼1
	政治学A	1①・③		1		○					1			兼1
	政治学B	1②・④		1		○					1			兼1
	国際関係論A	1①・③		1		○				1				兼1
	国際関係論B	1②・④		1		○				1				兼1
	海外文化研修	1・2・3・4・5・6 ①・②・③・④		2				○						兼1 集中
	経済学A	1①・③		1		○								兼1
	経済学B	1②・④		1		○								兼1
	日本国憲法	1①～②		2		○				1				兼1
	法学A	1①・③		1		○				1				兼1
	法学B	1②・④		1		○				1				兼1
	社会と人間A	1①・③		1		○					1			兼1
	社会と人間B	1②・④		1		○					1			兼1
	健康の科学	1③～④		2		○								兼1
	生涯スポーツ	1①～②		1				○						兼1
スポーツとフィールド科学 (エコツーリズムのための 野外スポーツ)	1①～②		2				○						兼6 集中 共同	
スポーツとフィールド科学 (スキー)	1③～④		1				○						兼8 集中 共同	
スポーツとフィールド科学 (テニス)	1①・③		1				○						兼1	
小計 (25科目)	—	—	0	29	0	—		0	1	1	0	0	兼19	
キャリア 教育科目	文章表現法基礎編A	1①・③		1		○					1			
	文章表現法基礎編B	1②・④		1		○					1			
	プレゼンテーション基礎編A	1①・③		1		○					1			※演習
	プレゼンテーション基礎編B	1②・④		1		○					1			※演習
	教養演習A	1①・③		1			○				1			
	教養演習B	1②・④		1			○				1			
	企業と人間A	1①・③		1		○								兼1
	企業と人間B	1②・④		1		○								兼1
	キャリア形成講座A	1①・③		1		○				1	2			共同※演習
	キャリア形成講座B	1②・④		1			○			1	2			共同
	学びの基礎論A	1①・③		1		○					1			
	学びの基礎論B	1②・④		1		○					1			
	企業情報特論A	2①		1		○								兼1
	企業情報特論B	2②		1		○								兼1
	インターンシップ概論	2①・②・③・④		1		○					1	2		
	インターンシップA	2①・②・③・④		1				○			1	2		集中
	インターンシップB	2①・②・③・④		2				○			1	2		集中
インターンシップC	2①・②・③・④		3				○			1	2		集中	
文章表現法応用編A	2①・③		1		○						1		※演習	
文章表現法応用編B	2②・④		1		○						1		※演習	
プレゼンテーション応用編A	2①・③		1		○						1		※演習	
プレゼンテーション応用編B	2②・④		1		○						1		※演習	
小計 (22科目)	—	—	0	25	0	—		0	1	2	0	0	兼2	

教育課程等の概要														
(獣医学部獣医保健看護学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
教養教育科目	現代人の科学A	1②・④		1		○			1					
	現代人の科学B	1①・②		1		○								兼1
	現代人の科学C	1①・③		1		○								兼1
	現代人の科学D	1①・③		1		○								兼1
	小計(4科目)		0	4	0				1	0	0	0	0	兼3
合計(195科目)		—	59	177	0				4	5	3	2	0	兼118
学位又は称号		学士(獣医保健看護学)		学位又は学科の分野			農学関係							
卒業要件及び履修方法								授業期間等						
<p>【卒業要件】</p> <p>専門教育科目、外国語教育科目、教養教育科目より合計124単位以上修得し、必修単位はすべて修得すること。専門教育科目より84単位以上、外国語教育科目6単位以上、教養教育科目19単位以上(内キャリア教育科目4単位以上、科学技術教育科目2単位以上)を修得すること。 (履修科目の登録の上限:49単位(年間))</p> <p>【アドバンスト科目の履修条件】</p> <p>アドバンス科目は5単位以上を修得すること。</p> <p>【外国語教育科目における選択必修科目の履修条件】</p> <p>1)「総合英語ⅢA」、「総合英語ⅢB」、「総合英語ⅣA」、「総合英語ⅣB」、「発信英語ⅢA」、「発信英語ⅢB」、「発信英語ⅣA」、「発信英語ⅣB」、「実用英語(アカデミックライティング)」、「実用英語(プレゼンテーション)」、「中国語ⅠA」、「中国語ⅠB」、「中国語ⅡA」、「中国語ⅡB」、「ハングルⅠA」、「ハングルⅠB」、「ハングルⅡA」、「ハングルⅡB」の中から2単位を選択必修科目として修得すること。</p> <p>2)外国人留学生は、母国語の科目を選択履修することはできない。</p> <p>3)「日本語」、「日本語理解」、「日本語表現」は外国人留学生対象の科目であり、他の学生は履修できない。</p>								1学年の学期区分			2期			
								1学期の授業期間			15週			
								1時限の授業時間			90分			

(注)

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。
 - 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

教 育 課 程 等 の 概 要															
(獣医学部獣医学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
導学 入部 科目 共通	動物関連キャリア概論	1①	1			○			11	4	2			兼2	オムニバス・ 共同（一部）※実習
	生命倫理学	1②	1			○			1						
	人間・動物関係学	1③		2		○			1						
	獣医事法規	3②	1			○			1						
	小計（4科目）	—	3	2	0	—	—	—	12	4	2	0	0	兼2	
基礎 科目	生命科学	1①	1			○			1	1					
	獣医分子生物学	1①	1			○			1						共同
	生命科学実習	1①	1					○	5	2	5	4			
	化学	1①	1			○			1						
	生物物理学	1③	1			○			1						
	放射線生物学	3②	1			○			1						オムニバス ※演習
	情報リテラシー	2①	2			○				1					
	生物統計	2③		1		○			1						
	動物福祉論	1①	1			○									兼1
	科学倫理学	4①	1			○									兼1
	小計（10科目）	—	10	1	0	—	—	—	9	3	5	4	0	兼2	
基礎 獣医 系科目	獣医生化学	1②	2			○			1						
	獣医生化学実習	1②	1					○	1	2	1	2			共同
	獣医生理学	1③	2			○			1						共同
	獣医生理学実習	1④	1					○	2	1	2	2			共同
	獣医形態機能学Ⅰ	1②	1			○			1						
	獣医形態機能学Ⅱ	1③	2			○				1					
	獣医解剖学実習	2④	2					○	2	1		2			共同
	獣医組織学実習	1③	1					○	1	1	1	1			共同
	獣医薬理学総論	2①	1			○			1						
	獣医薬理学各論	2②	2			○			1						
	獣医薬理学実習	2②	1					○	3	2	2				共同
	小計（11科目）	—	16	0	0	—	—	—	7	5	5	4	0	兼0	
専門 教育 科目	獣医微生物学	2①	2			○			1	1		1			オムニバス・ 共同（一部）
	獣医微生物学実習	2①	2					○	5	3		1			兼2 共同
	獣医毒性学	2④	2			○			1						共同
	獣医毒性学実習	2④	1					○	3	2	2				共同
	動物実験学	2②	2			○				1		1			オムニバス・ 共同（一部）
	獣医実験動物学実習	2②	1					○	1	2	2	2			共同
	獣医病理学総論	2①	1			○			1						
	獣医病理学各論	3③	2			○			1						
	獣医病理解剖学実習	3②	1					○	1		1	1			共同 集中 ※講義
	獣医病理学実習	3③	1					○	1		1	2			兼1 共同
	獣医免疫学	2③	2			○			1						
	獣医免疫学実習	2③	1					○	3	1	2	1			共同
	臨床検査学入門	3①	1			○			1						
	動物行動学	3①	2			○			1						
	野生動物学	3②	2			○					1				
	動物感染症学	3③～④	2			○			1	1					オムニバス
	魚病学	3②	2			○			1						
魚病学実習	3②	1					○	1	1		2			共同	
	小計（18科目）	—	28	0	0	—	—	—	14	8	5	6	0	兼3	
公衆 衛生 系科目	医動物学	2②	2			○			1						
	医動物学実習	2③	1					○	2		1	1			共同
	人獣共通感染症学	2③	2			○			1						
	獣医公衆衛生学総論	2④	2			○			1						
	獣医公衆衛生学実習	2④	1					○	5	3		1			共同
	食品衛生学	3①	2			○			1						
	食品衛生学実習	3①	1					○	6	2					兼1 共同
	環境衛生学	3①	2			○			1		1				
	獣医疫学	3①	2			○			1						※演習
	小計（9科目）	—	15	0	0	—	—	—	8	4	1	2	0	兼1	

教 育 課 程 等 の 概 要														
(獣医学部獣医学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
畜水産系科目	生産農学概論	1③		1		○								兼1
	水産増養殖学	1④		2		○			1					オムニバス
	遺伝育種学	2③	2			○			1					
	家禽疾病学	2④	1			○			1					
	動物衛生学	3②	1			○			1					
	動物衛生学実習	3②	1					○	4	3	2	1		兼2 共同
	飼料作物学	4①		2		○								兼2
	小計(7科目)	—	5	5	0	—			4	4	2	1	0	兼5
専門教育科目 臨床系科目	栄養学	1④		2		○								兼1
	獣医臨床薬理学	4②	1			○			4	3				オムニバス
	獣医臨床栄養学	4②	1			○			1					
	獣医内科学総論	3③	1			○			2					オムニバス
	獣医臨床病理学	4④	1			○				1				
	獣医呼吸・循環器病学	3④	2			○			2		1	1		オムニバス
	獣医消化器病学	4①	2			○			1					
	獣医泌尿生殖器病学	4②	2			○			1					
	獣医内分泌代謝学	4③	2			○			1					
	獣医神経病学	4②	1			○						1		
	獣医血液・免疫病学	4①	1			○			1					
	獣医皮膚病学	4④	1			○			1					
	獣医眼科学	4④	1			○				1				
	動物行動治療学	4③	1			○			1					
	小動物内科学実習	3③	1					○	8	6	3	5	2	共同
	獣医外科学総論	3③	1			○			1					
	獣医手術学総論	3③	1			○			1					
	獣医麻酔科学	3③	1			○			1					
	獣医軟部組織外科学	3④	2			○			1					
	獣医運動器病学	4②	2			○				1				
	獣医臨床腫瘍学	4④	1			○			1					
	獣医画像診断学	3③	2			○			1	1	1	1		オムニバス
	小動物外科学実習	3④	1.5					○	3	4	1	4	2	兼1 共同
獣医画像診断学実習	3④	1					○	2	2	2	3		共同	
産業動物臨床学	4①	2			○			1						
馬臨床学	4④	1			○								兼1 集中	
獣医臨床繁殖学	4③	2			○			1						
産業動物臨床実習	4②	2					○	6	1				兼1 共同	
獣医臨床繁殖学実習	4③	1					○	3		2			兼2 共同	
総合獣医学演習Ⅰ	4④	1					○	13	7	2	4		オムニバス・共同(一部)	
総合獣医学演習Ⅱ	6③	1					○	4					オムニバス	
獣医療面接実習	4②	0.5					○	4	2	2	3		共同	
総合参加型臨床実習	5①	6					○	10	7	4	6	3	兼1 共同	
小計(33科目)	—	47	2	0	—			16	7	6	7	3	兼4	
アドバンスト科目 ライフサイエンス科目	分子細胞腫瘍学	5③		1		○			3	2				オムニバス※演習
	発生工学	5③		1		○			1	1				オムニバス
	獣医病態モデル学	5③		1		○			1	1		1		兼1 オムニバス・共同(一部)※演習
	創薬科学	5④		1		○			1					
	トランスレーショナル・リサーチ	5③		1				○	1					※講義
	比較動物機能科学	5④		1		○			2	1		1		オムニバス
	修復・再生医療科学	6①		1		○			1	4		1		オムニバス
	国際ライフサイエンス産業政策論	6②		2		○			1					
	ライフサイエンス特別実習	5③		1				○	3	4	1			共同
小計(9科目)	—	0	10	0	—			11	8	1	2	0	兼1	

教 育 課 程 等 の 概 要																
(獣医学部獣医学科)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
専門 教育 科目	国際 獣 医 事 科 目	国際獣医事概論	5③	1		○			1							
		国際動物関連法規	5③	1		○			2						オムニバス	
		レギュラトリー科学	5③	1		○			2	1					オムニバス	
		国際動物疾病学	5④	1		○			3						オムニバス	
		国際野生動物管理学	6②	1		○					1					
		産業動物疾病予防管理学	5③	1		○									兼1	
		産業動物疾病診断病理学	5④	1		○			1			1			オムニバス	
		セキュリティ学	5④	1		○			1							
		グローバル食品管理科学	5④	1		○			1							
		医薬品・食品安全性評価演習	6①	1			○			1	1				※講義	
	国際獣医法学	6①	1			○			1			1		オムニバス		
	動物危機管理学	6②	2			○			1							
	国際生物資源学	6②	1			○			3	1				兼2		
	人獣共通感染症学実習	5②	1					○	4	2		1		兼1		
	公共獣医事情報解析実習	5③	1					○	5					共同		
	小計（15科目）	—	0	16	0	—	—	—	11	4	1	2	0	兼4		
	アド バ ン ス ト 科 目	臨床 獣 医 科 目	分子疫学	5③	1		○			2	2					オムニバス
			獣医臨床疫学演習	6②	1			○		2			1			オムニバス・ 共同（一部）
			エキゾチックアニマル学	5③	1			○		1		1	1			オムニバス
			抗菌薬バイオロジー	5③	1			○		1						
国際展示動物疾病学			5④	1			○		1	1	1				オムニバス	
トランスレーショナル・ベ テリナリーメディシン			5④	1			○		2	2					オムニバス	
免疫関連疾病学			5④	1			○		1							
獣医高度臨床学			6①	1			○		3	3			1		兼1	
チーム獣医療学			6①	1			○		1				1		兼1	
総合臨床検査特別実習			5③	1					○	2	1		2		兼2	
小計（10科目）	—	0	10	0	—	—	—	11	7	2	4	0	兼3			
	獣医キャリアスキルアップ研修	5②	2					○	3					集中 共同		
小計（1科目）	—	2	0	0	—	—	—	3	0	0	0	0	兼0			
総 合 科 目	卒業論文Ⅰ	5③～④	2					○	31	15	6					
	卒業論文Ⅱ	6①～②	2					○	31	15	6					
	卒業論文Ⅲ	6③～④	2					○	31	15	6					
	小計（3科目）	—	6	0	0	—	—	—	31	15	6	0	0	兼0		

教 育 課 程 等 の 概 要														
(獣医学部獣医学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
外国語 教育科目	総合英語ⅠA	1①	0.5			○			1					兼7
	総合英語ⅠB	1②	0.5			○			1					兼7
	総合英語ⅡA	1③	0.5			○			1					兼7
	総合英語ⅡB	1④	0.5			○			1					兼7
	総合英語ⅢA	2①	0.5			○			1					兼7
	総合英語ⅢB	2②	0.5			○			1					兼7
	総合英語ⅣA	2③	0.5			○			1					兼7
	総合英語ⅣB	2④	0.5			○			1					兼7
	発信英語ⅠA	1①	0.5			○					1			兼7
	発信英語ⅠB	1②	0.5			○					1			兼7
	発信英語ⅡA	1③	0.5			○					1			兼6
	発信英語ⅡB	1④	0.5			○					1			兼6
	発信英語ⅢA	2①	0.5		0.5	○					1			兼2
	発信英語ⅢB	2②	0.5		0.5	○					1			兼2
	発信英語ⅣA	2③	0.5		0.5	○					1			兼1
	発信英語ⅣB	2④	0.5		0.5	○					1			兼1
	専門英語ⅠA	3①	0.5				○			1	1	1		
	専門英語ⅠB	3②	0.5				○	○		1		1	1	
	専門英語ⅡA	3③	0.5				○	○			2		1	
	専門英語ⅡB	3④	0.5				○	○		2	1			
	応用英語ⅠA	3①	0.5			○				1		1		兼2
	応用英語ⅠB	3②	0.5			○				1		1		兼2
	応用英語ⅡA	3③	0.5			○				1		1		兼2
	応用英語ⅡB	3④	0.5			○				1		1		兼2
	実用英語 (アカデミックライティング)	1①～②	1			○				1		1		兼2
	実用英語 (プレゼンテーション)	1①～②	1			○				1		1		兼1
	中国語ⅠA	1①	0.5			○								兼3
	中国語ⅠB	1②	0.5			○								兼3
	中国語ⅡA	1③	0.5			○								兼3
	中国語ⅡB	1④	0.5			○								兼3
	ハングルⅠA	1①	0.5			○								兼2
	ハングルⅠB	1②	0.5			○								兼2
	ハングルⅡA	1③	0.5			○								兼2
	ハングルⅡB	1④	0.5			○								兼2
	海外語学研修A	1・2・3・4・5・6 ①・②・③・④	1					○				1		集中
	海外語学研修B	1・2・3・4・5・6 ①・②・③・④	2					○				1		集中
	海外語学研修C	1・2・3・4・5・6 ①・②・③・④	2					○				1		集中
	海外語学研修D	1・2・3・4・5・6 ①・②・③・④	3					○				1		集中
	日本語	1①～②	4											兼1
	日本語理解	1③～④	2			○								兼1
	日本語表現	1③～④	2			○								兼1
	TOEICセミナーⅠ	1・2・3・4・5・6 ①・②・③・④	2					○		1				
	TOEICセミナーⅡ	1・2・3・4・5・6 ①・②・③・④	2					○		1				
小計 (43科目)		—	6	32	0	—			4	3	3	2	0	兼20

教育課程等の概要															
(獣医学部獣医学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
初年次 教育科目	フレッシュマンセミナー	1①	1			○			1						
	小計(1科目)	—	1	0	0	—			1	0	0	0	0	0	
人間・社会科学 教育科目	心理学A	1①・③		1		○								兼1	
	心理学B	1②・④		1		○								兼1	
	文学A	1①・③		1		○								兼1	
	文学B	1②・④		1		○								兼1	
	日本史A	1①・③		1		○								兼1	
	日本史B	1②・④		1		○								兼1	
	外国史A	1①・③		1		○								兼1	
	外国史B	1②・④		1		○								兼1	
	政治学A	1①・③		1		○								兼1	
	政治学B	1②・④		1		○								兼1	
	国際関係論A	1①・③		1		○								兼1	
	国際関係論B	1②・④		1		○								兼1	
	海外文化研修	1・2・3・4・5・6 ①・②・③・④		2				○	1						集中
	経済学A	1①・③		1		○									兼1
	経済学B	1②・④		1		○									兼1
	日本国憲法	1①～②		2		○									兼1
	法学A	1①・③		1		○									兼1
	法学B	1②・④		1		○									兼1
	社会と人間A	1①・③		1		○									兼1
	社会と人間B	1②・④		1		○									兼1
	健康の科学	1③～④		2		○									兼1
	生涯スポーツ	1①～②		1				○							兼1
	スポーツとフィールド科学 (エコツーリズムのための 野外スポーツ)	1①～②		2				○							兼6 集中 共同
	スポーツとフィールド科学 (スキー)	1③～④		1				○							兼8 集中 共同
	スポーツとフィールド科学 (テニス)	1①・③		1				○							兼1
小計(25科目)	—	—	0	29	0	—			1	0	0	0	0	兼20	
キャリア 教育科目	文章表現法基礎編A	1①・③		1		○								兼1	
	文章表現法基礎編B	1②・④		1		○								兼1	
	プレゼンテーション基礎編A	1①・③		1		○								兼1 ※演習	
	プレゼンテーション基礎編B	1②・④		1		○								兼1 ※演習	
	教養演習A	1①・③		1			○							兼1	
	教養演習B	1②・④		1			○							兼1	
	企業と人間A	1①・③		1		○								兼1	
	企業と人間B	1②・④		1		○								兼1	
	キャリア形成講座A	1①・③		1		○								兼3 共同※演習	
	キャリア形成講座B	1②・④		1			○							兼3 共同	
	学びの基礎論A	1①・③		1		○								兼1	
	学びの基礎論B	1②・④		1		○								兼1	
	企業情報特論A	2①		1		○								兼1	
	企業情報特論B	2②		1		○								兼1	
	インターンシップ概論	2①・②・③・④		1		○									兼3
	インターンシップA	2①・②・③・④		1				○							兼3 集中
	インターンシップB	2①・②・③・④		2				○							兼3 集中
	インターンシップC	2①・②・③・④		3				○							兼3 集中
文章表現法応用編A	2①・③		1		○									兼1 ※演習	
文章表現法応用編B	2②・④		1		○									兼1 ※演習	
プレゼンテーション応用編A	2①・③		1		○									兼1 ※演習	
プレゼンテーション応用編B	2②・④		1		○									兼1 ※演習	
小計(22科目)	—	—	0	25	0	—			0	0	0	0	0	兼5	

教 育 課 程 等 の 概 要														
(獣医学部獣医学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
教養教育科目	現代人の科学A	1②・④		1		○								兼1
	現代人の科学B	1①・②		1		○								兼1
	現代人の科学C	1①・③		1		○			1					
	現代人の科学D	1①・③		1		○								兼1
	小計(4科目)		0	4	0				1	0	0	0	0	兼3
合計(225科目)		-	139	132	0				32	18	12	14	3	兼60
学位又は称号		学士(獣医学)			学位又は学科の分野			獣医学関係						
卒業要件及び履修方法							授業期間等							
<p>【卒業要件】 専門教育科目、外国語教育科目、教養教育科目より合計182単位以上修得し、必修単位はすべて修得すること。専門教育科目より145単位以上、外国語教育科目10単位以上、教養教育科目19単位以上(内キャリア教育科目4単位以上、科学技術教育科目2単位以上)を修得すること。 (履修科目の登録の上限：49単位(年間))</p> <p>【アドバンスト科目の履修条件】 ライフサイエンス分野の学生は、ライフサイエンス科目の10単位を必修とし、残り3単位は他分野から選択する。公共獣医事分野の学生は、国際獣医事科目から「人獣共通感染症学実習」を含む9単位を選択必修とし、残り4単位に関しては、同分野あるいは他分野から選択する。医獣連携獣医分野の学生は、臨床獣医科目から9単位を選択必修とし、ライフサイエンス科目から「トランスレーショナル・リサーチ」「分子細胞腫瘍学」「創薬科学」の合計3単位を必修とする。残り1単位に関しては分野を問わず選択する。</p> <p>【外国語教育科目における選択必修科目の履修条件】 1) 「発信英語ⅢA」、「発信英語ⅢB」、「発信英語ⅣA」、「発信英語ⅣB」、「実用英語(アカデミックライティング)」、「実用英語(プレゼンテーション)」、「中国語ⅠA」、「中国語ⅠB」、「中国語ⅡA」、「中国語ⅡB」、「ハングルⅠA」、「ハングルⅠB」、「ハングルⅡA」、「ハングルⅡB」の中から2単位を選択必修科目として修得すること。 2) 「専門英語ⅠA」「専門英語ⅠB」または「応用英語ⅠA」「応用英語ⅠB」のうちいずれかの組み合わせ、「専門英語ⅡA」「専門英語ⅡB」または「応用英語ⅡA」「応用英語ⅡB」のうちいずれかの組み合わせ、合わせて2単位を選択必修科目として修得すること。 3) 外国人留学生は、母国語の科目を選択履修することはできない。 4) 「日本語」、「日本語理解」、「日本語表現」は外国人留学生対象の科目であり、他の学生は履修できない。</p> <p>【教養教育科目における選択必修科目の履修条件】 1) キャリア教育科目から4単位を卒業までに修得しなければならない。 2) 科学技術教育科目から2単位を卒業までに修得しなければならない。</p>							1学年の学期区分		4期					
							1学期の授業期間		8週					
							1時限の授業時間		90分					

(注)

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。
 - 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

授業科目の概要			
（獣医学研究科 獣医保健看護学専攻 修士課程）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	獣医関連生命科学総合講義 I	<p>獣医関連科学に関する最先端でかつ俯瞰的な知識を育成するために、獣医療看護・獣医関連科学領域においてトップランナーとして研究を進める教員が最新のトピックを選び、その研究の背景・経緯、作業仮説、研究戦略、成果を紹介し、今後の研究展望について講義する。獣医関連生命科学総合講義 I ではとくに分子レベル、マイクロレベルの視点からの獣医関連生命科学に注目したトピックスについて解説する。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（1 浅沼武敏／1回） 腫瘍放射線治療における放射線増感剤（腫瘍酸化剤）と温熱療法との併用効果について作用メカニズム解明を目的とする臨床研究を中心に最新の知見を交えて講義する。</p> <p>（① 江藤真澄／1回） 動物の臓器不全に関連する平滑筋関連病態の分子機構に関する最新の知見を講義する。</p> <p>（7 木村展之／1回） 脳神経系細胞の老年性変化について細胞生物学的な観点から最新の知見を講義する。</p> <p>（12 畑明寿／1回） 生命科学領域で利用される質量分析等の分析技術についてその原理と最新の知見を講義する。</p> <p>（13 古本佳代／1回） 体外環境と動物の体温調節機構に関する最新の知見を講義する。</p> <p>（14 豊後貴嗣／1回） 動物の摂食・エネルギー代謝に関連する中枢調節機構に関する最新の知見を講義する。</p> <p>（16 松井利康／1回） 神経回路の解剖学的な研究方法について歴史的な経緯も踏まえて最新の知見を講義する。</p> <p>（19 齋藤（春末）文代／1回） 疾患メカニズムに関連した分子間ネットワークについてその解析手法と最新知見を講義する。</p> <p>（20 佐伯香織／1回） 代謝性疾患における運動療法がもたらす効果を中心に最新の知見を交えて講義する。</p> <p>（21 高橋秀和／1回） 環境衛生、特に環境微生物についての最新の知見を講義する。</p> <p>（22 田川道人／1回） がん患者における生体内での代謝変化と悪液質に関する最新知見を講義する。</p> <p>（23 久枝啓一／1回） 生体内における病原体の感染に対する生体内防御に関わる免疫活性化物質のミクロ的な作用について、最新の知見を講義する。</p> <p>（24 前田憲孝／1回） 動物の外科治療、特に腎泌尿器分野の外科治療に関する最新知見を講義する。</p>	オムニバス方式

授業科目の概要			
（獣医学研究科 獣医保健看護学専攻 修士課程）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	獣医関連生命科学総合講義 I	<p>(25 松田彬／1回) 外用療法が皮膚バリア機構に及ぼす影響に関する最新の知見を講義する。</p> <p>(26 米加田徹／1回) 水産養殖対象種における原因不明の疾病について、病原体特定までのアプローチと疾病防除に向けた取組みについて講義する。</p>	オムニバス方式
	獣医関連生命科学総合講義 II	<p>獣医関連科学に関する最先端でかつ俯瞰的な知識を育成するために、獣医療看護・獣医関連科学領域においてトップランナーとして研究を進める教員が最新のトピックを選び、その研究の背景・経緯、作業仮説、研究戦略、成果を紹介し、今後の研究展望について講義する。獣医関連生命科学総合講義IIではとくにマクロレベルの視点からの獣医関連生命科学に注目したトピックスについて解説する。 （オムニバス方式／全15回）</p> <p>(2 伊豆弥生／1回) 運動器疾患に関する研究の最新知見を講義する。</p> <p>(4 岡村泰彦／1回) 高侵襲手術の周術期管理に関する最新の知見を講義する。</p> <p>(5 神田鉄平／1回) 動物の周麻酔期看護および痛みの緩和に関する臨床的あるいは実験的研究を中心に最新の知見を交えて講義する。</p> <p>(7 木村展之／1回) イヌの認知症などに代表される動物の老年性疾患への対応について、国内外の比較などを含めてマクロな視点から講義する。</p> <p>(8 鍛田龍星／1回) 感染症の流行動態をマクロな視点で監視し、その予防と制御について講義する。</p> <p>(9 齊藤（齊藤）真也／1回) 疾患における細胞内情報伝達の異常について最新の知見を講義する。</p> <p>(10 作道章一／1回) 滅菌・殺菌・消毒技術に関する最新の知見を講義する。</p> <p>(11 杉山晶彦／1回) 動物の中枢神経系疾患の病態に関する最新の知見を講義する。</p> <p>(12 畑明寿／1回) 動物における臨床検査の精度管理と標準化についてヒト医学分野での知見も踏まえ講義する。</p> <p>(13 古本佳代／1回) 動物の健康管理とQOLに関する最新の知見を講義する。</p> <p>(14 豊後貴嗣／1回) 動物のストレスの非侵襲的検出方法について最新の知見を講義する。</p>	オムニバス方式

授業科目の概要			
（獣医学研究科 獣医保健看護学専攻 修士課程）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	獣医関連生命科学総合講義Ⅱ	<p>(15 邊見弘明／1回) 免疫学の基礎的研究から関連疾患の病態解明、臨床応用へ向けた研究などについて最新の知見を講義する。</p> <p>(20 佐伯香織／1回) 臨床現場における看護実践の事象について人と動物の比較などを含め最新の知見を講義する。</p> <p>(22 田川道人／1回) がん患者における最新治療と医学、獣医学の違いについて講義する。</p> <p>(23 久枝啓一／1回) 動物における飼育環境と感染性疾患および代謝性疾患との予防ならびに予後の関連性について最新の知見を講義する。</p>	オムニバス方式
	高齢動物科学特論	近年の獣医療技術や栄養学の発展に伴い伴侶動物の寿命は飛躍的に延伸したが、その結果として伴侶動物の高齢化が進み、老年性疾患という新たな問題と向き合うこととなった。老年性疾患の多くは罹患動物のQOLを著しく低下させることから、治療法の開発のみならず高齢動物に適したケア技術の確立が喫緊の課題となっている。本講義では、老年性疾患の最大リスク因子である老化の生物学的メカニズムや、主に伴侶動物を対象とする各種老年性疾患の病態、および高齢動物を対象とする獣医療における現在の問題点などについて講義し、高齢動物に適した動物看護学の本質を理解して実践につなげられるようになることを目的とする。	
	動物感染症特論	産業動物の感染症は、家畜の生産性を著しく低下させることにより、畜産業において経済的な損害を多く与えている。また、愛玩動物の感染症は、動物に苦痛を与えると同時に、飼い主の心理的な生活の質の低下をもたらしている。さらに、野生動物の感染症においては、新型コロナウイルスなどのように野生動物から人類へと感染が拡散し、人々の生活や経済の低下に大きな影響を与えている。本講義では、動物感染症に関する最先端の研究を研究背景、経緯、研究戦略、及び問題点について講義し、動物感染症の研究について理解し、研究の考え方や採材方法、検査方法の選択、結果の解析の仕方や解釈の仕方を習得すること、及びそれらを説明できるようになることを目的とする。	
	飼育動物学特論	我が国の動物愛護管理法では、人の飼育下における動物の愛護と共生という目的の下、飼育動物を、4つの動物群に分けそれぞれの対処法を規定している。本講義では、それらの中から、家庭動物（伴侶動物）、産業動物、展示動物、実験動物を取り上げ、それぞれの動物群がかかえる諸課題について国際比較を交えながら、現状を講義する。教員からの課題提起に基づき、その課題解決法と今後のあり方について、より良い動物の愛護と共生のあり方や今後の展望について考察し説明できることを目標とする。	
	動物福祉学特論	人間と密接に関わる動物の健康管理や疾患に対する効率的かつ適切な対応方法を研究・開発するためには、動物福祉の知識や考察力、さらには動物福祉について科学的な研究と評価から現実問題を改善するための実践的戦略を見出すことが必要である。本講義では、人間と動物がよりよい関係を構築するための方策・あり方・特色を、疾患の病態解明、予防医学、生理指標、行動、栄養学的・検査学的手法の開発など、様々な方面から考察し、説明できることを目標とする。	

授業科目の概要			
（獣医学研究科 獣医保健看護学専攻 修士課程）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	動物看護学特論	動物病院における獣医療現場において患者の疾病や未病の状態の変化に柔軟に対応できるための実践能力を身につけるために、最先端の動物看護学の知見を修得することを目標とし、本講義では、動物看護学を進めていくうえで基盤となる最先端の動物看護学領域のトピックス、1) 人と動物を対象としたときの看護学の視点の特徴、2) 愛玩動物に特徴的な腫瘍性疾患・腎泌尿器疾患・皮膚疾患に関する看護のあり方、3) 高度治療に必須となる最先端の麻酔/疼痛管理の知見と問題点、に関する最新の知見について講義する。	共同
演習科目	獣医保健看護学特別演習 I	<p>毎回に出される課題に取り組むことで、獣医保健看護学研究者として研究プロジェクト推進に対する援助・補助を受けるために必要な能力を高めるために、研究費申請書の構造や審査基準などに関する知識を深めるとともに、実際に申請書を作成し、それを互いにピア・レビューを行うことで研究費作成に必要な表現方法を修得する。 （全15回：オムニバス）</p> <p>① 江藤真澄/2回 研究助成金の申請書作成に向けた準備として、これまでの研究概要のまとめ方や、新たな研究計画の立案時における注意事項、具体的な研究計画や、業績等の必要事項を記載する際に重要な注意事項などについて演習を行う。</p> <p>⑦ 木村展之/2回 一般的な競争的研究資金の種類や制度、および申請時における海外の現状などについて講義と総括を行う。</p> <p>⑧ 楯田龍星/3回 研究助成金の申請書作成に向けた準備として、口頭発表による二次審査を念頭に置いて、発表スライドの作成時に重要な注意事項、口頭発表による二次審査における注意事項、口頭発表による二次審査における注意事項などについて、実際に口頭発表を行いながら演習を行う。</p> <p>⑬ 古本佳代/1回 実験動物関連の研究をテーマとした研究の申請書あるいは報告書を題材として、演習を行う。</p> <p>⑭ 豊後貴嗣/1回 産業動物関連の研究をテーマとした研究の申請書あるいは報告書を題材として、演習を行う。</p> <p>⑯ 松井利康/2回 研究助成を受ける研究者として確実に求められる倫理観について演習を行う。</p> <p>⑳ 佐伯香織/2回 実際に申請書を作成し、互いにピアレビューを行いながら、より良い申請書の作成方法について演習を行う。</p> <p>㉒ 田川道人/1回 獣医療看護関連の研究をテーマとした研究の申請書あるいは報告書を題材として演習を行う。</p> <p>㉕ 松田彬/1回 実際に申請書を作成し、互いにピアレビューを行いながら、より良い申請書の作成方法について演習を行う。</p>	オムニバス方式

授業科目の概要			
（獣医学研究科 獣医保健看護学専攻 修士課程）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
演習科目	獣医保健看護学特別演習Ⅱ	<p>獣医保健看護学特別演習Ⅰに引き続き、獣医保健看護学領域において基盤となる方法の開発に必要な理論と方法論を修得するために、研究テーマに応じた研究背景と作業仮説、最新の研究戦略と解析方法、今後の研究展開方向などを文献より入手することを目的とする。本演習Ⅱでは、1) 研究論文の検索方法や研究論文の構造研究、2) 批評的読解力強化を目指した論文研究、3) 修士論文研究進捗報告を主なテーマとする。</p> <p>（全15回：オムニバス）</p> <p>（4 岡村泰彦／1回） 動物の腫瘍に関する獣医療看護分野の論文の批評的な解釈について演習を行う。</p> <p>（6 神林康弘／2回） 公共獣医事に関連した獣医関連科学分野の論文の批評的な解釈について演習を行う。</p> <p>（7 木村展之／2回） 獣医保健看護学研究論文の構造と英文の特徴について演習を行う。</p> <p>（12 畑明寿／2回） 臨床検査学に関連した獣医関連科学分野の論文の批評的な解釈について演習を行う。</p> <p>（13 古本佳代／1回） 獣医保健看護学に関連した論文の内容についてプレゼンテーションを通じて演習を行う。</p> <p>（14 豊後貴嗣／1回） 獣医保健看護学に関する今後の研究計画についてプレゼンテーションを通じて演習を行う。</p> <p>（15 逸見弘明／2回） 英文論文の検索方法、PUBMEDの利用法、PUBMED以外の検索サイトの利用法に関する演習を行う。</p> <p>（20 佐伯香織／3回） 高齢動物に関する獣医療看護分野の論文の批評的な解釈について演習を行う。修士論文研究の研究背景、実験方法の理論的な意義、研究の進捗状況についてプレゼンテーションを通じて演習を行う。</p> <p>（21 高橋秀和／1回） 公衆衛生学に関する獣医関連科学分野の論文の批評的な解釈について演習を行う。</p>	オムニバス方式

授業科目の概要			
（獣医学研究科 獣医保健看護学専攻 修士課程）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
演習科目	獣医保健看護学特別演習Ⅲ	<p>獣医保健看護学演習Ⅱに引き続き、獣医保健看護学領域において基盤となる方法の開発に必要な理論と方法論を修得するために、研究テーマに応じた研究背景と作業仮説、最新の研究戦略と解析方法、今後の研究展開方向などを文献より入手することを目標とする。本演習Ⅲでは、1) 研究論文発表の準備としての研究成果プレゼンテーション技術の習得、2) 研究進捗状況発表技術の習得、3) 研究発表会議論の訓練を主なテーマとする。</p> <p>（全15回：オムニバス）</p> <p>（10 作道章一／1回） 各自の研究テーマの「重要性」について3分間で説明し、それについてクラス内で議論することでプレゼンテーション技術に関する演習を行う。</p> <p>（② 水野理介／1回） 各自の研究テーマの「重要性」に「新規性」を加えて3分間で説明し、それについてクラス内で議論することでプレゼンテーション技術に関する演習を行う。</p> <p>（20 佐伯香織／2回） 各自の研究テーマの「重要性・新規性・研究戦略」に「期待される成果」を加えて3分間で説明し、それについてクラス内で議論することでプレゼンテーション技術に関する演習を行う。</p> <p>（23 久枝啓一、24 前田憲孝、26 米加田徹／6回）（共同） 研究発表ポスターのうち、「研究の目的と背景」「研究方法」「結果」「考察・結論」部分を発表し、それについてクラス内で議論するとともに、研究発表ポスターを完成させ、それについてクラス内で発表、議論することでプレゼンテーション技術に関する演習を行う。</p> <p>（5 神田鉄平、7 木村展之、14 豊後貴嗣／3回）（共同） 各自が用意する研究進捗プレゼンテーションについてクラス内で議論し、その結果に基づき改善した研究進捗プレゼンテーションと公開研究進捗プレゼンテーションのために用いる分野外の研究者に対するプレゼンテーションを発表することで演習を行う。</p> <p>（5 神田鉄平、7 木村展之、10 作道章一、14 豊後貴嗣、② 水野理介、20 佐伯香織、23 久枝啓一、24 前田憲孝、26 米加田徹／2回）（共同） 公開研究進捗プレゼンテーション、総論とピア・レビューとしてクラス内において互いのプレゼンテーションを評価し、建設的な意見交換を行うことで演習を行う。</p>	オムニバス方式・共同（一部）

授業科目の概要			
（獣医学研究科 獣医保健看護学専攻 修士課程）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
演習科目	獣医保健看護学特別演習Ⅳ	<p>獣医保健看護学演習Ⅲに引き続き、獣医保健看護学領域において基盤となる方法の開発に必要な理論と方法論を修得するために、研究テーマに応じた研究背景と作業仮説、最新の研究戦略と解析方法、今後の研究展開方向などを文献より入手することを目標とする。本演習Ⅳでは、研究論文作成技術向上を主なテーマとする。 （全15回：オムニバス）</p> <p>（1 浅沼武敏／1回） 各自の研究テーマの「背景と目的」の作製。研究の独自性についての発表することで演習を行う。</p> <p>（2 伊豆弥生／2回） 先行研究の文献研究と各自の研究テーマの「背景と目的」部分の段落構成についての発表することで演習を行う。</p> <p>（7 木村展之／1回） オリエンテーションと研究論文のタイトル、要旨作成することで演習を行う。</p> <p>（18 横山博、19 齋藤（春末）文代、20 佐伯香織／5回） 先行研究の論文における「材料と方法」について研究し、論文形式で記述、続いて「結果」について研究し各自の研究の結果を図表で表現すること、その図表の説明文を作成することで演習を行う。</p> <p>（9 齊藤（齊藤）真也、11 杉山晶彦、13 古本佳代／4回） 先行研究の論文における「考察」について研究し、その後に各自の研究テーマでの「考察」について論文形式で記述することと共に、研究論文のタイトルと要旨の改善することで演習を行う。</p> <p>（7 木村展之、9 齊藤（齊藤）真也、14 豊後貴嗣／2回） 研究論文の構成に関する発表することで演習を行う。</p>	オムニバス方式・共同（一部）

授業科目の概要			
（獣医学研究科 獣医保健看護学専攻 修士課程）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
演習科目	高度動物看護学特別演習	<p>犬および猫を対象とした各診療分野における高度獣医療の実際を学び、それらに対する専門的な動物看護の在り方を多角的に考え実践できる人材の育成を目指す。1) がんの治療とそれに伴う動物看護の実際について説明できる、2) 長期間の治療が必要となる症例における動物看護の実際について説明できる、3) 高齢動物における動物看護の実際について説明できる、4) 周麻酔期における動物看護の実際について説明できる、5) 動物看護に関わる事例報告が作成できる、ことを目標とする。 （全15回：オムニバス）</p> <p>（1 浅沼武敏／2回） 犬や猫を対象とした放射線治療について概説する。特に、治療の前の準備、治療に伴う診療の補助、治療後に必要となる動物の看護、飼い主とのコミュニケーションの実際を学ぶ。放射線治療の適用となった症例につき、看護計画の立案と看護実践を行う。適切な症例がない場合には、過去の記録を対象として行う。</p> <p>（4 岡村泰彦／2回） 犬や猫を対象としたがん治療（外科）について概説する。特に、治療の前の準備、手術の補助、治療後に必要となる動物の看護、飼い主とのコミュニケーションの実際を学ぶ。がん治療目的とした外科手術の適用となった症例につき、看護計画の立案と看護実践を行う。適切な症例がない場合には、過去の記録を対象として行う。</p> <p>（5 神田鉄平／2回） 犬や猫を対象とした周麻酔期の動物看護について概説する。特に、麻酔の準備、麻酔管理に伴う診療の補助、麻酔後に必要となる動物の看護、飼い主とのコミュニケーションの実際を学ぶ。全身麻酔が実施される症例につき、看護計画の立案と看護実践を行う。適切な症例がない場合には、過去の記録を対象として行う。</p> <p>（20 佐伯香織／2回） 高齢の犬や猫を対象とした看護および診療の補助について概説する。特に、入院中および退院後に必要となる介入や援助、それらに関連する指導を含めた飼い主とのコミュニケーションの実際を学ぶ。高齢の症例につき、看護計画の立案と看護実践を行う。適切な症例がない場合には、過去の記録を対象として行う。</p> <p>（22 田川道人／2回） 犬や猫を対象としたがん治療（内科）について概説する。特に、治療の前の準備、治療に伴う診療の補助、抗がん剤の取扱い、治療中に必要となる動物の看護、飼い主とのコミュニケーションの実際を学ぶ。抗がん剤治療の適用となった症例につき、看護計画の立案と看護実践を行う。適切な症例がない場合には、過去の記録を対象として行う。</p> <p>（24 前田憲孝／2回） 犬や猫を対象とした腎泌尿器疾患の外科および長期治療について概説する。特に、治療の前の準備、外科手術を含む治療に伴う診療の補助、食餌管理、治療中および治療後に必要となる動物の看護、飼い主とのコミュニケーションの実際を学ぶ。腎泌尿器疾患の治療が開始される症例につき、看護計画の立案と看護実践を行う。適切な症例がない場合には、過去の記録を対象として行う。</p> <p>（25 松田彬／2回） 犬や猫を対象とした皮膚病の長期治療について概説する。特に、診断・治療の前の準備、治療に伴う診療の補助、食餌管理、治療中に必要となる動物の看護、飼い主とのコミュニケーションの実際を学ぶ。皮膚病の治療が開始される症例につき、看護計画の立案と看護実践を行う。適切な症例がない場合には、過去の記録を対象として行う。</p> <p>（1 浅沼武敏、4 岡村泰彦、5 神田鉄平、20 佐伯香、22 田川道人、24 前田憲孝、25 松田彬／1回）（共同） 演習で取り上げたテーマから一つ選び、関連の深い症例について看護事例報告に関する演習を行う。</p>	オムニバス方式・共同（一部）

授業科目の概要			
（獣医学研究科 獣医保健看護学専攻 修士課程）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
演習科目	いきものQOLラボ特別演習	<p>工学系教員との共同研究立案プロセスを通じて、獣医保健看護学専門家が目標とするいきものQOL向上を目指す上での研究の推進に障害となる様々な問題を発見し、それらの解決のための手法とプロセスを考察することを目的とする。1) 「ものづくり」の基盤となる基本的な技術のコンセプトを修得する。2) 特別研究を通じて教育病院、実験室、フィールドにおいて業務遂行に障害となっている問題を見いだす。3) 問題解決に向けたデバイスのコンセプトを立案し、開発計画を立てる。4) 問題解決手段に関する法律の視点からの考察を行う。（全15回：オムニバス）</p> <p>① 江藤真澄／7回） 獣工連携の将来性といきものQOLプロジェクトの概要の解説と履修者の修学目標設定を行う。用意された書式に沿って研究開発計画書を作成し、それらを互いに精読し、長所と改善点をリストアップする。教員が座長となり、各自の研究計画書の模擬ピア・レビュー審査会を行う。各自の開発計画を組み合わせ一つの開発テーマにすることを協議する。グループテーマにするために必要な準備を行う際のグループ内で役割をきめる。グループテーマのプレゼンテーション準備のためのディスカッションを行う。発表のアウトラインを作成する。</p> <p>② 水野理介／1回） 獣医療と関連分野における現在と将来の課題について議論することで演習を行う。</p> <p>① 江藤真澄、② 水野理介／1回）（共同） グループで準備したプレゼンテーションを発表することで演習を行う。</p> <p>① 江藤真澄、27 赤木徹也／2回）（共同） 獣医保健看護分野が関連する獣医療工学／獣医療福祉工学において有用な生体センサーとなり得るデバイスの概要について、デバイス研究開発計画書作成に必要なセンサー制御プログラムについて、センサーから送信される信号の解析アルゴリズムの基本について議論することで演習を行う。</p> <p>① 江藤真澄、② 水野理介、27 赤木徹也／4回） 獣医保健看護学が関連する5つのデバイス案を決定、デバイスの研究開発の詳細についてプレゼンテーション、修正したデバイスの研究開発の詳細についてプレゼンテーション・質疑を行い、ピア・レビューで評価する共に総括・公開発表会：獣医保健看護学科、獣医学研究科と理工学研究科の教員・学生に対してグループ発表を行い、質疑応答を行うことで演習を行う。</p>	オムニバス方式・共同（一部）
	動物インターナショナルキャリア	<p>本演習では、国際シンポジウムや国際会議において英語を用いた研究発表を実施するため、参加会議の検索、発表題目の設定、要旨作成などの前準備、および発表原稿作成、プレゼンテーション資料作成、英語による発表練習などの発表準備を行う。必要に応じて、プロシーディングスなどの作成も行う。発表後は、発表内容とディスカッションやコメント等をまとめて成果報告書を作成する。</p>	

授業科目の概要			
（獣医学研究科 獣医保健看護学専攻 修士課程）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	特別研究	<p>60週間にわたり修士論文作成に向けた必要な専門知識と取りまとめの手技を修得し、主体的に修士論文作成するために、研究指導教員（主）と研究指導教員（副）のもとで、1) 研究テーマに関連した文献、資料を研究し、研究計画として目標とする研究項目と必要であればその遂行のための作業仮説を立てる、2) 教育病院、実験室、フィールド等で研究を行いデータを収集・解析、結果を考察する、3) 研究成果を中間発表会と学会発表することで研究プレゼンテーション技術を習得し、質疑応答を通じて研究の考察を深める、4) 研究成果について修士論文をまとめる。</p> <p>(1 浅沼武敏) 腫瘍放射線治療における放射線増感剤（腫瘍酸化剤）と温熱療法の併用効果について作用メカニズム解明を目的とする臨床研究の指導を行う。</p> <p>(2 伊豆弥生) 動物の運動器疾患の病態解明を目的とし、モデル動物を用いて研究の指導を行う。</p> <p>(① 江藤真澄) 動物の病気に関する細胞シグナルを分子・細胞・個体レベルにて解析する研究の指導を行う。</p> <p>(4 岡村泰彦) 愛玩動物の腫瘍性疾患に対する低侵襲手術法開発に関する研究の指導を行う。</p> <p>(5 神田鉄平) 動物の周麻酔期看護および痛みの緩和に関する臨床的あるいは実験的研究の指導を行う。</p> <p>(6 神林康弘) ヒトの健康に関する疫学研究の進め方や統計解析について研究の指導を行う。</p> <p>(7 木村展之) 動物の老化および老年性疾患の生物学的機構解明を目的とする基礎老化研究の指導を行う。</p> <p>(8 鍛田龍星) 産業動物および野生動物における人獣共通感染症の疫学調査に関する研究の指導を行う。</p> <p>(9 齊藤（齊藤）真也) 病態を模したモデルの解析を分子・細胞・組織・個体の各レベルで行い、薬物治療の戦略を構築する研究の指導を行う。</p> <p>(10 作道章一) ウイルス・細菌・プリオンにより引き起こされる感染症の制御法についての研究の指導を行う。</p> <p>(11 杉山晶彦) 各種動物における化学物質の毒性発現機構の解明を目的とする毒性病理学的研究の指導を行う。</p> <p>(12 畑 明寿) ヒトと動物の臨床検査技術に関する研究の指導を行う。</p> <p>(13 古本佳代) 動物福祉向上を目的として動物の行動や生理機能に影響を与える要因について解析する研究の指導を行う。</p> <p>(14 豊後貴嗣) 神経行動学観点から動物のストレス反応についてマイクロからマクロまで解析する研究の指導を行う。</p> <p>(15 邊見弘明) 免疫が関わる疾患や生命現象を中心に、培養細胞やモデル動物等を用いて、その病態や分子基盤を解析する研究の指導を行う。</p> <p>(16 松井利康) 動物の神経系における情報伝達機序および機能的結合の解析について神経解剖学の視点から研究の指導を行う。</p> <p>(② 水野理介) 生理学的条件における微小循環・リンパ循環の調節機構を解明し、病態解析に繋がる研究の指導を行う。</p>	

授業科目の概要			
（獣医学研究科 獣医保健看護学専攻 修士課程）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	特別研究	<p>(18 横山博) 魚病の診断、予防、治療法の開発、および被害軽減を目的とした研究の指導を行う。</p> <p>(19 齋藤（春末）文代) 動物の疾患について早期段階からの発症メカニズムをオミクス解析により解明する研究の指導を行う。</p> <p>(20 佐伯香織) 実践動物看護学の観点からあらゆる健康レベルの動物に応じた看護ケアについて質的および量的研究手法を用いた動物看護研究の指導を行う。</p> <p>(21 高橋秀和) 環境問題と動物の関わりを解明することを目的として、ミクロからマクロまでの実験やデータ解析を基盤とする研究の指導を行う。</p> <p>(22 田川道人) 動物の腫瘍性疾患に対し動物看護学の観点から診断と治療補助およびQOL向上に関する研究の指導を行う。</p> <p>(23 久枝啓一) 産業動物における生産性向上を図ることを目的として、感染症や代謝病における病態解明とそれらの予防に関する研究の指導を行う。</p> <p>(24 前田憲孝) 動物の外科治療、特に腎泌尿器分野の外科治療に関する研究の指導を行う。</p> <p>(25 松田彬) 内科疾患の病態・治療・予防に関して分子生物学的に解析する研究の指導を行う。</p> <p>(26 米加田徹) 養殖魚介類における感染症の防除技術の開発に関わる研究の指導を行う。</p>	

（注）

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目であって同時に授業を行う学生数が40人を超えることを想定するものについては、その旨及び当該想定する学生数を「備考」の欄に記入すること。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校等の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

授業科目の概要			
(獣医学研究科 獣医学専攻 博士課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	フロンティア獣医学総合講義 I	<p>獣医学の扱う幅広い研究領域にまたがる課題について俯瞰的な視野と考察力を涵養するために、広義の獣医学に関する先端研究トピックス紹介を行い、博士論文作成にあたり必要な専門知識を講義する。フロンティア獣医学総合講義 I では主に動物生理学的な解析に関連する話題について講義する。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(① 江藤真澄/2回) 筋神経系における翻訳後タンパク質修飾の生理的役割についての最新の知見を講義する。</p> <p>(2 神田鉄平/1回) α2-アドレナリン受容体作動薬が引き起こす嘔吐について、その臨床的意義や生理学的機序に関する過去から現在までの知見を総説的に講義する。</p> <p>(3 齊藤(齊藤)真也/2回) 分化転換による細胞機能の変化、細胞運動とその調節について講義する。</p> <p>(4 作道章一/1回) 人と動物のプリオン病とその特徴について講義する。</p> <p>(5 杉山晶彦/2回) 動物の神経系疾患の原因、発生機序、病態生理、症状、診断法と治療法に関する最新の知見について講義する。</p> <p>(6 邊見弘明/2回) ヒトと動物における免疫機構や免疫関連疾患の分子基盤を含めた病態生理学とその応用について講義する。</p> <p>(② 水野理介/4回) 人と動物における心疾患の病態生理学とその応用、脳循環障害の病態生理学とその応用について講義する。</p> <p>(8 横山 博/1回) 魚介類の分類・形態・解剖・生理・免疫学や養殖方法の基礎、および感染症・非感染症の原因・疫学・病理・診断法・治療法の最新の知見について講義する。</p>	オムニバス方式

授業科目の概要			
(獣医学研究科 獣医学専攻 博士課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	フロンティア獣医学総合講義Ⅱ	<p>フロンティア獣医学総合講義Ⅱに引き続き、広義の獣医学に関わる学際領域に関する先端トピックス紹介を行い、博士論文作成に当たり必要な専門知識を講義する。この講義では特に感染症と病態に関連した話題を中心に講義する。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(① 江藤真澄/1回) 動物の疾病に関わる遺伝子群に関する最新の研究成果と今後の展望について講義する。</p> <p>(2 神田鉄平/1回) 動物の感じる不安や恐怖が麻酔や鎮静に与える影響について近年の知見を総論的に講義する。</p> <p>(3 齊藤(齊藤)真也/1回) 疫学領域における創薬の在り方についての現状分析と将来展望について講義する。</p> <p>(4 作道章一/6回) プリオン病の研究において用いられる様々な解析技術について概論するとその応用、ウイルス感染症の研究において用いられる様々な解析技術、様々な滅菌殺菌技術について概論するとともに、その応用について関連文献や講義担当者の研究成果も紹介しながら講義する。</p> <p>(5 杉山晶彦/1回) 動物の皮膚疾患の原因、発生机序、病態生理、症状、診断法と治療法に関する最新の知見について講義する。</p> <p>(6 邊見弘明/1回) 免疫学の基盤となる研究や免疫関連疾患の基礎研究、およびそれらに用いられる様々な解析技術について概論するとともに、その応用について関連文献や講義担当者の研究成果も紹介しながら講義する。</p> <p>(② 水野理介/1回) 循環器疾患の疫学とその対策についてグローバルな視点から講義する。</p> <p>(8 横山 博/3回) 魚介類の養殖法や環境、魚介類の分類・形態・解剖・生理・免疫学などの基礎知識について概論し、その応用について関連文献や講義担当者の研究成果を紹介しながら講義する。 ウイルス・細菌・真菌・原虫・寄生虫などによる感染症の発生机序、疫学、病態生理、症状、診断法と治療法について概論し、その応用について関連文献や講義担当者の研究成果を紹介しながら講義する。 魚類飼育上の衛生管理、魚類の一般検査法、水産関連法規、水産用ワクチンを含む水産用医薬品について概論し、その応用について関連文献や講義担当者の研究成果を紹介しながら講義する。</p>	オムニバス方式

授業科目の概要			
(獣医学研究科 獣医学専攻 博士課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	フロンティア獣医学総合講義Ⅲ	<p>フロンティア獣医学総合講義Ⅱに引き続き、広義の獣医学に関わる学際領域に関する先端トピックス紹介を行い、博士論文作成にあたり必要な専門知識を講義する。この講義では特に獣医臨床や公共獣医事分野の現場における課題に関するテーマを取り上げる。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(① 江藤真澄/1回) 動物の疾病に関わる細胞シグナル伝達に関する最新の研究成果と今後の展望について講義する。</p> <p>(2 神田鉄平/4回) バランス麻酔のコンセプトに基づいた全身麻酔法におけるα2-アドレナリン受容体作動薬の使用方法や期待される作用、α2-アドレナリン受容体作動薬が引き起こすインスリンの分泌抑制、α2-アドレナリン受容体作動薬が引き起こす涙液の分泌抑制について、その臨床的意義や生理学的機序に関する過去から現在までの知見を総論的に講義する。</p> <p>(3 齊藤(齊藤)真也/1回) 末梢循環障害が介在する臨床症状について、原因から結果まで最新の知見に基づいて講義する。</p> <p>(4 作道章一/1回) プリオン病の発生機序と病態生理に関する最新の知見について講義する。</p> <p>(5 杉山晶彦/5回) 動物の血液・造血管疾患、腫瘍性疾患、炎症性疾患、泌尿器疾患、生殖器疾患、循環器疾患の原因、発生機序、病態生理、症状、診断法と治療法に関する最新の知見について講義する。</p> <p>(6 邊見弘明/1回) 基礎的な免疫機構に加え、炎症性疾患、自己免疫疾患などの免疫関連疾患に関して、その分子基盤や病態、発症機序などについて最新の知見について講義する。</p> <p>(② 水野理介/1回) 人およびペットにおけるサルコペニア・フレイルに関する最新の知見について講義する。</p> <p>(8 横山博/1回) 養殖魚介類の養殖方法や環境、魚介類の分類・形態・解剖・生理・免疫などの基礎知識、および感染症や非感染症の原因、発生機序、疫学、病態生理、症状、診断法と治療法に関する最新の知見について講義する。</p>	オムニバス方式

授業科目の概要			
(獣医学研究科 獣医学専攻 博士課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	フロンティア獣医学総合講義Ⅳ	<p>フロンティア獣医学総合講義Ⅲに引き続き、広義の獣医学に関わる学際領域に関して、学内外の教員による先端トピックス紹介を行い、博士論文作成にあたり必要な専門知識を講義する。本講義では獣医学を支える最先端のライフサイエンス手法についての講義を行う。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(① 江藤真澄/2回) ライフサイエンスの観点に基づき、細胞機能調節に関する最新のトピックスについて講義する。 ライフサイエンスの観点に基づき、細胞の刺激応答に関する最新のトピックスについて講義する。</p> <p>(2 神田鉄平/2回) クリニカルサイエンスの観点に基づき、中枢機能調節に関する最新のトピックスについて講義する。 クリニカルサイエンスの観点に基づき、外科的治療を行う疾患に関する最新のトピックスについて講義する。</p> <p>(3 齊藤(齊藤)真也/2回) ライフサイエンスの観点に基づき、ケミカルプローブに関する最新のトピックスについて講義する。 ライフサイエンスの観点に基づき、細胞機能変化に関する最新のトピックスについて講義する。</p> <p>(4 作道章一/2回) パブリックサイエンスの観点に基づき、感染症に関する最新のトピックスについて講義する。 パブリックサイエンスの観点に基づき、感染症治療に関する最新のトピックスについて講義する。</p> <p>(5 杉山晶彦/2回) クリニカルサイエンスの観点に基づき、内科的治療を行う疾患に関する最新のトピックスについて講義する。 クリニカルサイエンスの観点に基づき、疾病による病態変化に関する最新のトピックスについて講義する。</p> <p>(6 邊見弘明/2回) ライフサイエンスの観点に基づき、細胞間コミュニケーションに関する最新のトピックスについて講義する。 ライフサイエンスの観点に基づき、免疫応答に関する最新のトピックスについて講義する。</p> <p>(② 水野理介/1回) ライフサイエンスの観点に基づき、循環系機能調節に関する最新のトピックスについて講義する。</p> <p>(8 横山博/2回) パブリックサイエンスの観点に基づき、感染症予防に関する最新のトピックスについて講義する。 パブリックサイエンスの観点に基づき、非哺乳類の感染症に関する最新のトピックスについて講義する。</p>	オムニバス方式

授業科目の概要			
(獣医学研究科 獣医学専攻 博士課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
演習科目	獣医インターナショナルキャリア	本演習では、国際シンポジウムや国際会議において英語で高度かつ最先端の内容の研究発表を実施するため、参加会議の検索、発表題目の設定、要旨作成などの前準備、および発表原稿作成、プレゼンテーション資料作成、英語による発表練習などの発表準備を行う。グローバルな視点からライフサイエンス・パブリックサイエンス・クリニカルサイエンスの学際性を学修する。必要に応じて、プロシーディングスなどの作成も行う。発表後は、発表内容とディスカッションやコメント等をまとめて成果報告書を作成する。	共同
	獣医学術プレゼンテーション	本演習では、学会・研究会などにおいて高度かつ最先端の内容の研究発表を行うために必要な一連の技術を指導する。発表要旨執筆のために必要な文章の組み立てなどのアカデミック・ライティングの技術、これらをもとにして研究成果発表を行うにあたって、目的や結果を明確にわかりやすく伝えるプレゼンテーション資料作成を学ぶ。ポスター並びに口頭による発表のためのポスターの作成、口頭発表練習、質疑応答の対応などについても学ぶ。発表後は、発表内容とディスカッションやコメント等をまとめて成果報告書を作成する。	共同
	獣医いきものQOLラボ特別演習	工学系教員との共同研究を計画することを演習テーマとすることで、獣医学専門家が目標とするいきもののQOL向上を目指す上での研究の推進に障害となる様々な問題を発見し、それらの解決のための手法とプロセスを考察することを目的とする。1) 「ものづくり」の基盤となる基本的な技術のコンセプトを修得する。2) 特別研究を通じて教育病院、実験室、フィールドにおいて業務遂行に障害となっている問題を見いだす。3) 共同研究を通じて問題解決に向けたデバイスのコンセプトを主体的に立案する手法を理解する。4) IoTデバイスを用いた研究で得られたデータの有用性を理解する。5) 問題解決手段に関係する法律の視点からの考察を行う。 (オムニバス方式/全15回) (① 江藤真澄/7回) 獣工連携の将来性といきものQOLプロジェクトの概要の解説と履修者の修学目標設定、獣医療工学/獣医療福祉工学において必要となり得る法律について具体例のケーススタディー、研究開発計画書作成、研究計画計画書の模擬ピア・レビュー審査会、グループテーマのプレゼンテーション準備、発表のアウトラインを作成することに関する演習を行う。 (② 水野理介/1回) 獣医関連課題研究：獣医療と関連分野における最先端の課題について議論することで演習を行う。 (① 江藤真澄、② 水野理介/1回) グループで準備したプレゼンテーションを発表することで演習を行う。 (① 江藤真澄、② 赤木徹也/2回) 獣医療工学/獣医療福祉工学において有用な生体センサーとなり得るデバイスの具体例を考察することで演習を行う。 (① 江藤真澄、② 水野理介、③ 赤木徹也/4回) 研究経過のブレインストーミング、研究開発テーマプレゼンテーション、ピア・レビュー、総括・公開発表会を通じて演習を行う。	オムニバス方式・共同（一部）

授業科目の概要			
(獣医学研究科 獣医学専攻 博士課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	特別研究 I	<p>研究成果を学位論文としてまとめるために必要なスタートアップを支援することを目的とする。獣医学分野における研究の遂行に必要な高度かつ最先端の実験技術等を修得させ、博士論文作成のための研究指導を実習形式で行う。最初にラボローテーション方式によって各分野の基本的な実験・解析方法を学び、獣医学の幅広い領域の概観を理解させる。つづいて高度な専門性を有する具体的な実験手法、実験結果の考察、進捗状況の報告、発表方法の修得等、専門領域にわかれて修得するべく、個別指導を行う。</p> <p>達成目標は、1) 実験を通じて獣医学の3分野それぞれについて基本的な考え方を理解する、2) 過去の研究論文を収集・集約し、論理的な思考によって研究計画を立案できるよう、個別指導によって修得する、3) 必要な実験技術・分析能力を取得し、実験の目的と意義を理解し、研究の遂行に必要な知識と技能を、個別指導によって修得することである。</p> <p>(① 江藤真澄) 動物の病気に関する細胞シグナルを分子・細胞・個体レベルにて解析する研究の指導を行う。</p> <p>(2 神田鉄平) 動物の麻酔・鎮静および痛みの治療に関する臨床的あるいは実験的研究の指導を行う。</p> <p>(3 齊藤(齊藤)真也) 病態を模したモデルの解析を分子・細胞・組織・個体の各レベルで行い、薬物治療の戦略を構築する研究の指導を行う。</p> <p>(4 作道章一) ウイルス・細菌・プリオンにより引き起こされる感染症の制御法についての研究の指導を行う。</p> <p>(5 杉山晶彦) 各種動物における化学物質の毒性発現機構を主として病理組織学的手法を用いて解明する研究の指導を行う。</p> <p>(6 邊見弘明) 免疫が関わる疾患や生命現象を中心に、培養細胞やモデル動物等を用いて、その病態や分子基盤を解析する研究の指導を行う。</p> <p>(② 水野理介) 病態生理学的条件における微小循環・リンパ循環の調節機構を解明し、橋渡し研究に繋がる研究の指導を行う。</p> <p>(8 横山博) 魚病の診断、予防、治療法の開発、および被害軽減を目的とした研究の指導を行う。</p>	

授業科目の概要			
(獣医学研究科 獣医学専攻 博士課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	特別研究Ⅱ	<p>自らの研究成果をもとに作業仮説を修正・展開することによって、研究能力を発展させることを目標とする。獣医学分野における研究の展開に必要な高度かつ最先端の知識・能力等を修得し、博士論文作成のための研究指導を実習形式で行う。過去の研究論文に照らして自らの研究成果の位置づけをし、展開するために必要な論理的な思考・議論ができるよう、個別指導によって修得させる。研究成果を学位論文としてまとめるためにあたって高度な議論とプレゼンテーション能力を有し、専門家として独立しうる能力を獲得することを目標とする。博士論文を作成し、自らの研究を社会に発信するための研究指導を実習形式で行う。議論と考察によって研究成果をまとめさせ、成果を発信できるように、個別指導によって修得させることである。</p> <p>(① 江藤真澄) 動物の病気に関する細胞シグナルを分子・細胞・個体レベルにて解析する研究の指導を行う。</p> <p>(2 神田鉄平) 動物の麻酔・鎮静および痛みの治療に関する臨床的あるいは実験的研究の指導を行う。</p> <p>(3 齊藤(齊藤)真也) 病態を模したモデルの解析を分子・細胞・組織・個体の各レベルで行い、薬物治療の戦略を構築する研究の指導を行う。</p> <p>(4 作道章一) ウイルス・細菌・プリオンにより引き起こされる感染症の制御法についての研究の指導を行う。</p> <p>(5 杉山晶彦) 各種動物における化学物質の毒性発現機構を主として病理組織学的手法を用いて解明する研究の指導を行う。</p> <p>(6 邊見弘明) 免疫に関わる疾患や生命現象を中心に、培養細胞やモデル動物等を用いて、その病態や分子基盤を解析する研究の指導を行う。</p> <p>(② 水野理介) 病態生理学的条件における微小循環・リンパ循環の調節機構を解明し、橋渡し研究に繋がる研究の指導を行う。</p> <p>(8 横山博) 魚病の診断、予防、治療法の開発、および被害軽減を目的とした研究の指導を行う。</p>	

授業科目の概要			
（獣医学研究科 獣医学専攻 博士課程）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	ゼミナール	<p>各研究室で実施する特別研究と並んで、特別研究を遂行するために必要な基礎能力をセミナー形式で身につけ、研究発表および質疑応答を通じて、プレゼンテーション技術を習得することを目標としている。</p> <p>一つの課題に対して、決められた時間内で調査研究・発表、ディスカッションを通じて、お互いに協力して解決へ導くことができるよう指導する。</p> <p>（① 江藤真澄） 動物の病気に関する細胞シグナルを分子・細胞・個体レベルにて解析する研究の指導を行う。</p> <p>（2 神田鉄平） 動物の麻酔・鎮静および痛みの治療に関する臨床的あるいは実験的研究の指導を行う。</p> <p>（3 齊藤（齊藤）真也） 病態を模したモデルの解析を分子・細胞・組織・個体の各レベルで行い、薬物治療の戦略を構築する研究の指導を行う。</p> <p>（4 作道章一） ウイルス・細菌・プリオンにより引き起こされる感染症の制御法についての研究の指導を行う。</p> <p>（5 杉山晶彦） 各種動物における化学物質の毒性発現機構を主として病理組織学的手法を用いて解明する研究の指導を行う。</p> <p>（6 邊見弘明） 免疫が関わる疾患や生命現象を中心に、培養細胞やモデル動物等を用いて、その病態や分子基盤を解析する研究の指導を行う。</p> <p>（② 水野理介） 病態生理学的条件における微小循環・リンパ循環の調節機構を解明し、橋渡し研究に繋がる研究の指導を行う。</p> <p>（8 横山博） 魚病の診断、予防、治療法の開発、および被害軽減を目的とした研究の指導を行う。</p>	

（注）

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目であって同時に授業を行う学生数が40人を超えることを想定するものについては、その旨及び当該想定する学生数を「備考」の欄に記入すること。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

学校法人加計学園 設置認可等に関わる組織の移行表

令和5年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員		令和6年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
岡山理科大学					岡山理科大学				
理学部 応用数学科	110	—	440	→	理学部 応用数学科	110	—	440	
理学部 基礎理学科	90	—	360		理学部 基礎理学科	90	—	360	
理学部 物理学科	45	—	180		理学部 物理学科	45	—	180	
理学部 化学科	75	—	300		理学部 化学科	75	—	300	
理学部 動物学科	45	—	180		理学部 動物学科	45	—	180	
理学部 臨床生命科学科	50	—	200		理学部 臨床生命科学科	50	—	200	
工学部 機械システム工学科	90	—	360		工学部 機械システム工学科	90	—	360	
工学部 電気電子システム学科	70	—	280		工学部 電気電子システム学科	70	—	280	
工学部 情報工学科	75	—	300		工学部 情報工学科	75	—	300	
工学部 応用化学科	60	—	240		工学部 応用化学科	60	—	240	
			3年次					3年次	
工学部 建築学科	75	5	310		工学部 建築学科	75	5	310	
工学部 生命医療工学科	25	—	100		工学部 生命医療工学科	25	—	100	
情報理工学部 情報理工学科	210	—	840		情報理工学部 情報理工学科	210	—	840	
生命科学部 生物科学科	165	—	660		生命科学部 生物科学科	165	—	660	
生物地球学部 生物地球学科	140	—	560		生物地球学部 生物地球学科	140	—	560	
教育学部 初等教育学科	70	—	280		教育学部 初等教育学科	70	—	280	
教育学部 中等教育学科	60	—	240		教育学部 中等教育学科	60	—	240	
経営学部 経営学科	160	—	640		経営学部 経営学科	160	—	640	
獣医学部 獣医学科	140	—	840		獣医学部 獣医学科	140	—	840	
獣医学部 獣医保健看護学科	60	—	240		獣医学部 獣医保健看護学科	60	—	240	
			3年次					3年次	
計	1815	5	7550		計	1815	5	7550	
岡山理科大学大学院					岡山理科大学大学院				
理工学研究科 自然科学専攻 (M)	70	—	140	→	理工学研究科 自然科学専攻 (M)	70	—	140	
理工学研究科 自然科学専攻 (D)	10	—	30		理工学研究科 自然科学専攻 (D)	10	—	30	
理工学研究科 システム科学専攻 (M)	60	—	120		理工学研究科 システム科学専攻 (M)	60	—	120	
理工学研究科 システム科学専攻 (D)	5	—	15		理工学研究科 システム科学専攻 (D)	5	—	15	
マネジメント研究科 マネジメント専攻 (M)	12	—	24		マネジメント研究科 マネジメント専攻 (M)	12	—	24	
					獣医学研究科 獣医保健看護学専攻 (M)	5	—	10	研究科の設置(認可申請)
					獣医学研究科 獣医学専攻 (D)	3	—	12	研究科の設置(認可申請)
計	157		329		計	165		351	

学校法人加計学園 設置認可等に関わる組織の移行表

令和5年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員		令和6年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
倉敷芸術科学大学					倉敷芸術科学大学				
		3年次		→			3年次		
芸術学部 メディア映像学科	90	2	364			0	0	0	令和6年4月学生募集停止
芸術学部 デザイン芸術学科	60	—	240			0	—	0	令和6年4月学生募集停止
							3年次		
生命科学部 生命科学科	40	—	160		芸術学部 芸術学科	150	2	604	学科の設置(届出)
生命科学部 健康科学科	55	—	220		生命科学部 生命科学科	40	—	160	
		3年次			生命科学部 健康科学科	55	—	220	
生命科学部 動物生命科学科	50	2	204				3年次		
生命科学部 生命医科学科	55	—	220		生命科学部 動物生命科学科	50	2	204	
		3年次			生命科学部 生命医科学科	55	—	220	
計	350	4	1408		計	350	4	1408	
倉敷芸術科学大学大学院					倉敷芸術科学大学大学院				
芸術研究科 芸術制作表現専攻(D)	4	—	12	→	芸術研究科 芸術制作表現専攻(D)	4	—	12	
芸術研究科 美術専攻(M)	10	—	20		芸術研究科 美術専攻(M)	10	—	20	
産業科学技術研究科 機能物質化学専攻(D)	2	—	6		産業科学技術研究科 機能物質化学専攻(D)	2	—	6	
産業科学技術研究科 機能物質化学専攻(M)	8	—	16		産業科学技術研究科 機能物質化学専攻(M)	8	—	16	
人間文化研究科 人間文化専攻(M)	15	—	30		人間文化研究科 人間文化専攻(M)	15	—	30	
計	39	—	84		計	39	—	84	
千葉科学大学					千葉科学大学				
薬学部 薬学科	100	—	600	→	薬学部 薬学科	100	—	600	
危機管理学部 危機管理学科	120	—	480		危機管理学部 危機管理学科	120	—	480	
危機管理学部 保健医療学科	80	—	320		危機管理学部 保健医療学科	80	—	320	
危機管理学部 航空技術危機管理学科	40	—	160		危機管理学部 航空技術危機管理学科	40	—	160	
危機管理学部 動物危機管理学科	60	—	240		危機管理学部 動物危機管理学科	60	—	240	
看護学部 看護学科	90	—	360		看護学部 看護学科	90	—	360	
計	490	—	2160		計	490	—	2160	
千葉科学大学大学院					千葉科学大学大学院				
薬学研究科 薬学専攻(D)	3	—	12	→	薬学研究科 薬学専攻(D)	3	—	12	
薬学研究科 薬科学専攻(D)	5	—	15		薬学研究科 薬科学専攻(D)	5	—	15	
危機管理学研究科 危機管理学専攻(D)	3	—	9		危機管理学研究科 危機管理学専攻(D)	3	—	9	
危機管理学研究科 危機管理学専攻(M)	10	—	20		危機管理学研究科 危機管理学専攻(M)	10	—	20	
看護学研究科 看護学専攻(M)	5	—	10		看護学研究科 看護学専攻(M)	5	—	10	
計	26	—	66		計	26	—	66	
岡山理科大学専門学校					岡山理科大学専門学校				
建築学科 夜間部	20	—	40	→	建築学科 夜間部	20	—	40	
建築学科 昼間部	40	—	80		建築学科 昼間部	40	—	80	
愛玩動物看護学科	40	—	120		愛玩動物看護学科	40	—	120	
トリミング学科	40	—	80		トリミング学科	40	—	80	
動物飼育トレーニング学科	40	—	80		動物飼育トレーニング学科	40	—	80	
アクアリウム学科	40	—	80		アクアリウム学科	40	—	80	
動物系総合学科研究科	15	—	15		動物系総合学科研究科	15	—	15	
建築学科専攻科	15	—	15		建築学科専攻科	15	—	15	
計	250	—	510		計	250	—	510	
玉野総合医療専門学校					玉野総合医療専門学校				
保健看護学科	40	—	160	→	保健看護学科	40	—	160	
理学療法学科	40	—	160		理学療法学科	40	—	160	
作業療法学科	40	—	160		作業療法学科	40	—	160	
計	120	—	480		計	120	—	480	